

官版

國法汎論

下帙

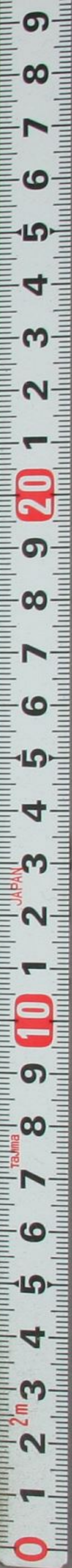
第二冊

2

7保

5157

8-3



保
天保
5/37
8-3

明治 壬申 五月 刊行

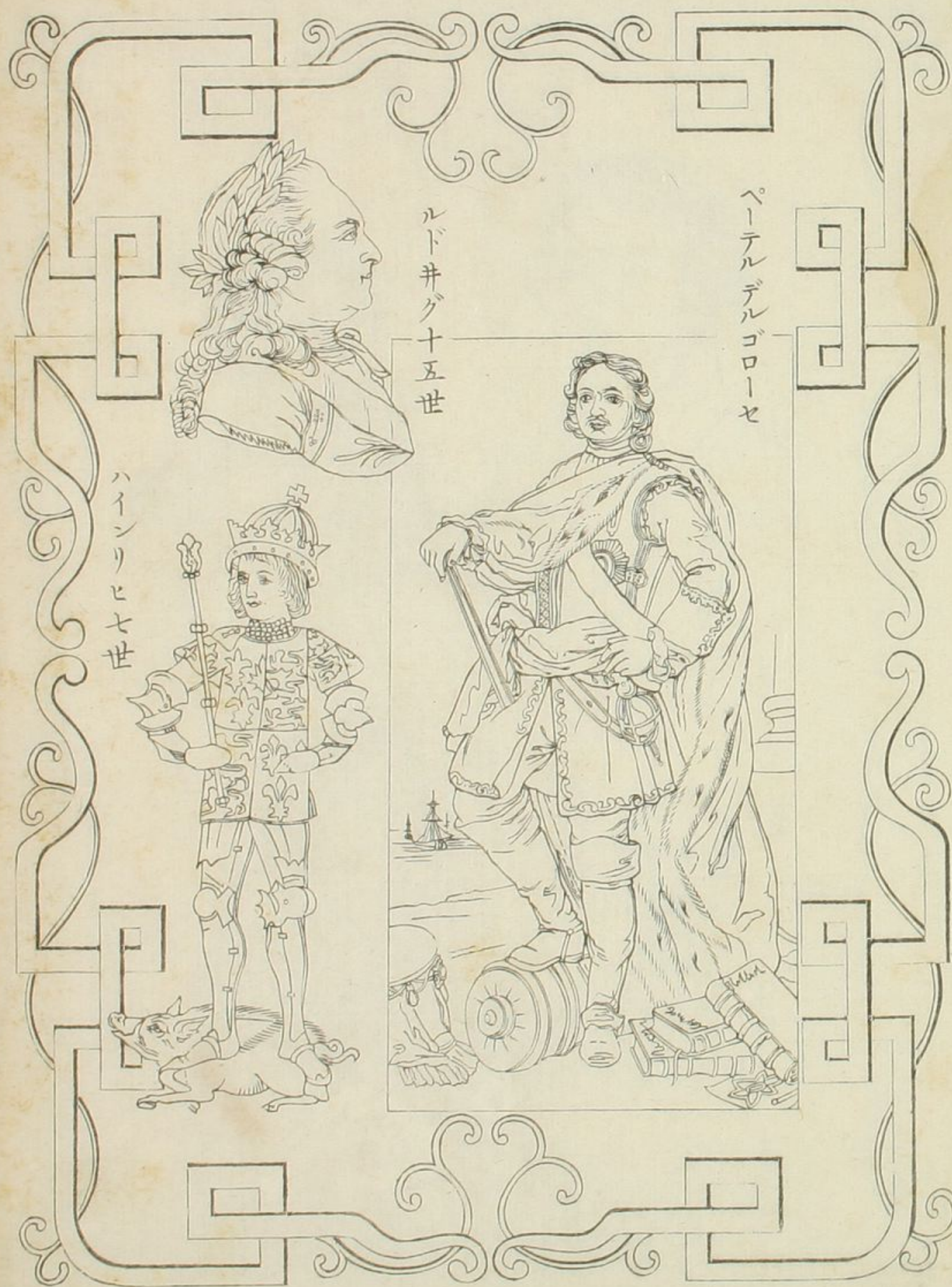
イ、カ、ブルン 著
從五位加藤知之 譯

國法汎論

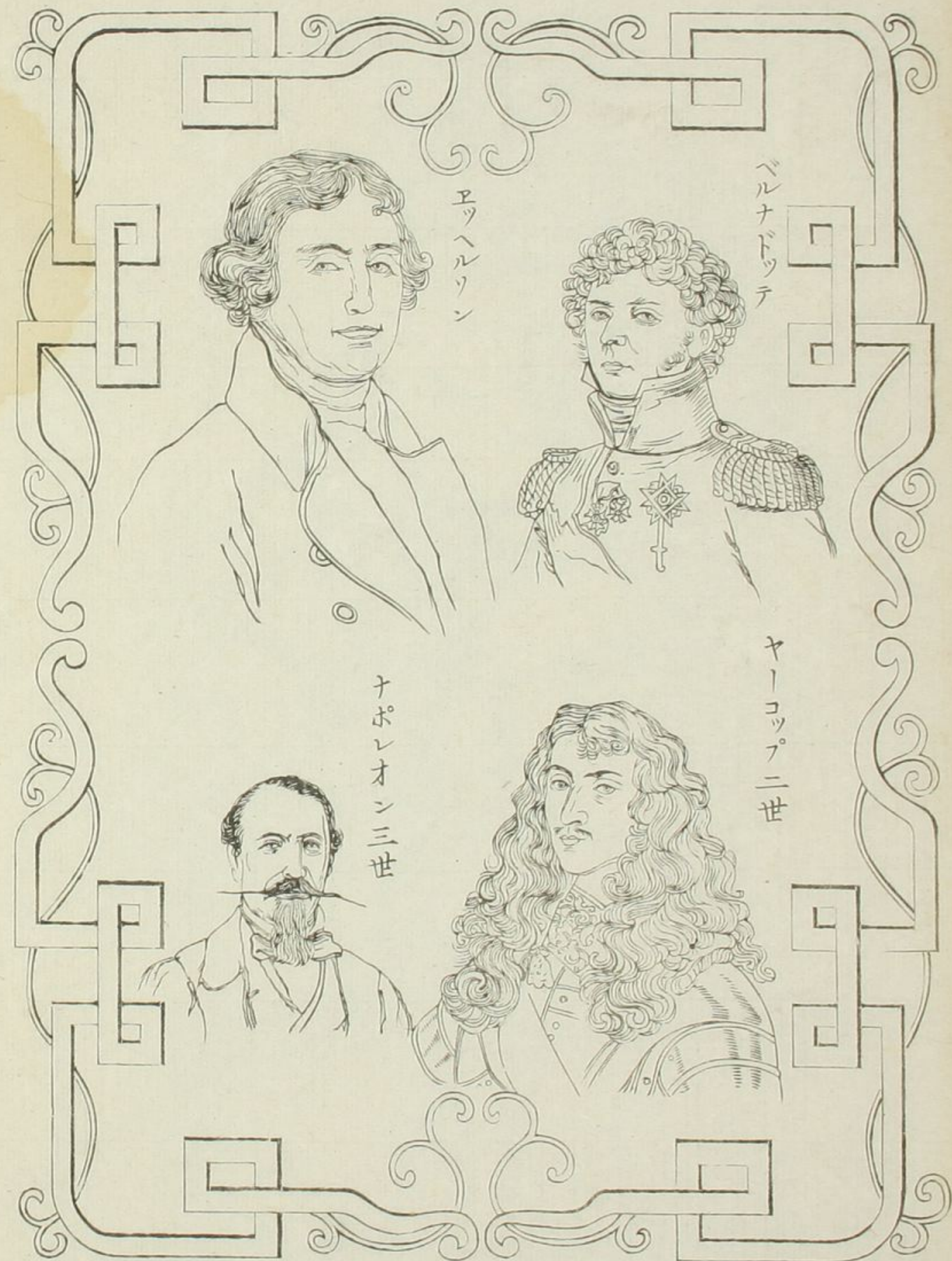
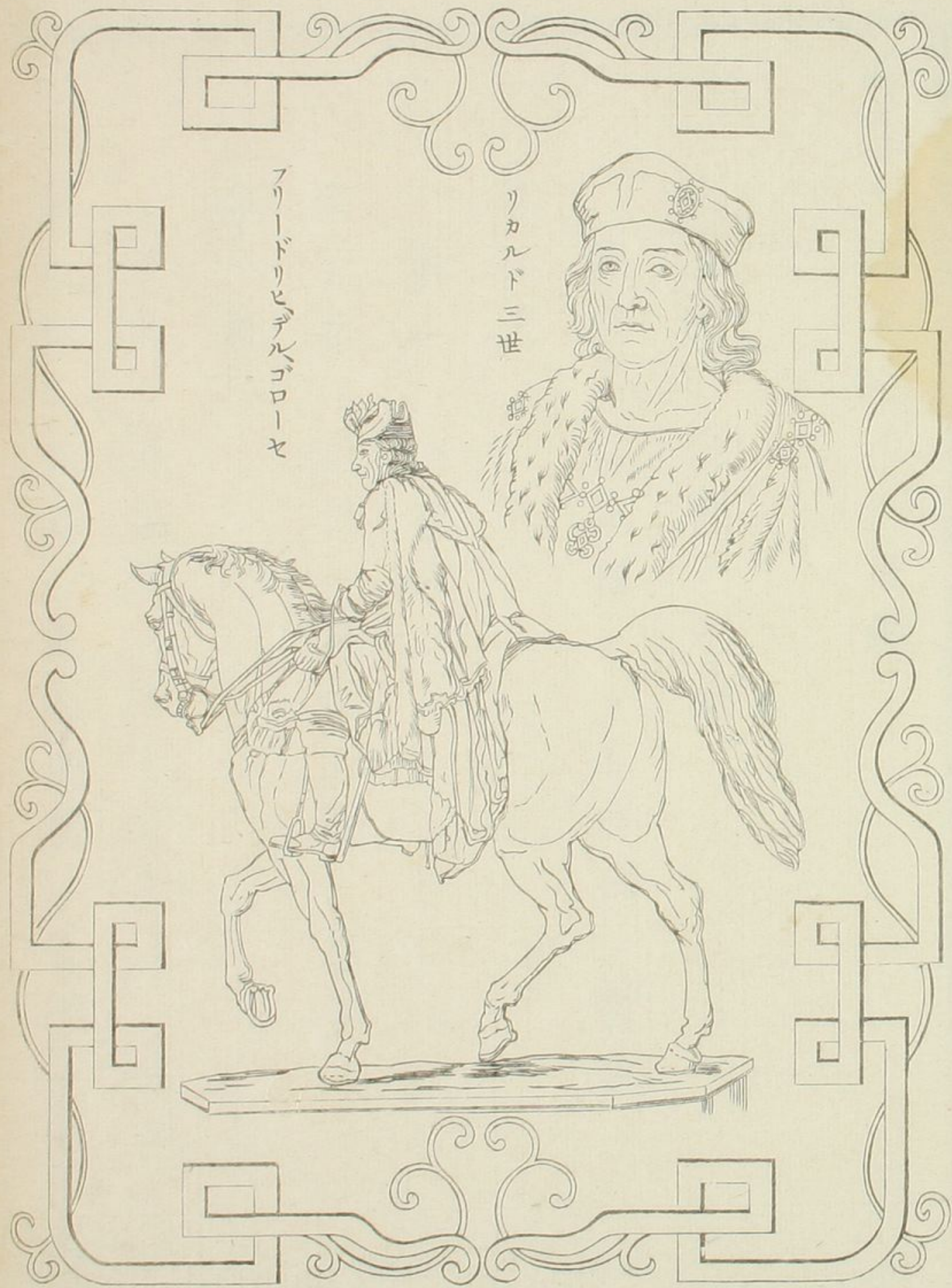
文部省

画ク處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繡像ナリ

川上寛模 畫



卷之六中一



國法汎論卷之六 中目錄

第五款 國家ノ元首

第一 君主國ニテ其得位ノ體裁

第六款

第二 世襲法

第七款 繼位ニ就テ人體ノ應否

第八款

第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁

第九款 先君ノ義務嗣君ニ遞傳スルノ法

下帙第二冊

國法汎論

卷六 中目錄

政府

第十款

第四 攝政職ノ設置

第十一款 政柄ノ失去

國法汎論卷之六 中日録

不刊



國法汎論卷之六 中

イ、カ、ブルン、五リ、著

加藤弘之 譯

第五款

國家ノ元首、スタール、按、君主國ニテハ

ハ、君主ヲ元首ト云ヒ、民主國ニテハ、統領ノ類ヲ元首ト云ス、

第一 君主國ニテ其得位ノ體裁、エント

フ、デング、モスホルメン、イ、

君主其位ヲ得ルノ體裁、古今數種アリ、

〔第二〕選立、太古羅馬ノ國法ニテハ、君主ヲ選立

スル法ナリキ、又中古ニ及ヒ、教士ノ君主トナル

國ニテハ、エグプト、ビシフ〔按〕共ニ教化及ヒ教皇〔按〕師ノ官名
 ススエ、皆選立ナリキ、其他〔按〕匈牙利、波蘭、非尼亞、
 ノ君主、及ヒ獨乙帝國等ノ君主モ亦、皆選立ニ因
 テ、其位ヲ得タリ、而シテ非尼亞國ノ君主ハ、ド
 ーゲト稱シテ、終身其位ニ在ルノ制度ナリキ、
 〔第二〕世襲、此體裁中古ニ於テハ、之ヲ用ルノ國
 屢々タリシカ、其後ニ至リ、漸ク歐洲各國ニ行ハ
 レテ、今時ハ遂ニ一般ノ通法トナレリ、
 〔第三〕世襲選立ノ合制〔按〕元ト世襲ノ法ナレバ、時
 立ス〔按〕加爾達額〔按〕古時一亞弗國、及ヒ古時日耳曼各
 國ニテハ、エグプト、ビシフ〔按〕共ニ教化及ヒ教皇〔按〕師ノ官名

國ノ制度ハ、世襲選立ノ二制ヲ合用セリ、〔卷之四〕
 款ヲ參照
 〔第四〕養嗣禪位ノ制、羅馬ニテ君主自ラ國法ニ
 因テ、其繼嗣ニ耐ル者ヲ選舉シ、之ヲ子養シ、以テ
 其位ヲ禪リシトアリ、〔按〕俄羅斯彼得大帝モ、一時此
 ノ制度ヲ立テシトアリ、
 〔第五〕屬國君主ノ選任、大國ノ君主其屬國ノ君
 主ヲ選任スルコトアリ、中古ノカロリンゲル氏〔中〕
 小邦ノ君主ヲ選フニ、此制ヲ用ヒ、迄今ニ至リテ

モ、那破倫之ヲ用ヒ、土耳其國亦之ヲ用ス、

第六 新建國君主ノ選立、新國ヲ建立スルニ方
リテ、他各國之ヲ認許スルキハ、互ニ條約ヲ定メ
テ、其君主ヲ選立スルコトアリ、

第七 君主ノ自立、國家戰亂顛覆ノ際、其他危急
存亡ノ秋ニ方リテ、一豪傑衆ニ擢テ、國家ノ大權
ヲ掌握シ、以テ自ラ君主トナルコトアリ、本卷第十
一款ヲ參

照シ去レ此ノ如キ大事業、若シ公理ニ戻リ、正
義ニ背クキハ、則徒ラニ覆法ノ叛民タルノミ、
○

比の利、テ、ル、ゴ、ロ、シ、セ
○按普魯士國王、一千七
百十二年ニ生レ八十

六年ニ殂ス、又此の曰、臣民正義ヲ以テ君主ト
利第二世ト稱ス、

ナルハ、唯選立制度ノ國ニ生レテ、其選立ニ膺
ル時、若ハ國家將ニ亡ヒントスルニ方リテ、忠
憤愛國ノ心ヲ以テ、再ヒ國家ノ不羈獨立ヲ復
スル時ニ在ルノミト

第八 強大ナル外國ノ威カヲ以テ、君主ヲ立置ス
ルコトアリ、

以上諸體裁中、世襲選立ノ二法ニ就テハ、殊ニ其
得失利害如何ニ於テ、諸大家ノ所見、及ヒ各國ノ
公論紛然一定セサリキ、○選立ヲ以テ是トスル

徒ハ、國家終始賢明ノ君ヲ得ント欲セハ、唯選立
 ノ法ヲ用フルニ如カスト云フ、元來選立法ヲ用
 フルノ本旨ハ、終始賢君英主ヲ要スルニ在リ、若
 シ世襲ノ法ヲ用フルキハ、賢明ノ君ヲ必得スル
 能ハサル、固ヨリ論ヲ須タス、加之選立ノ法ヲ用
 フル國ニ於テハ、其臣民タル者、司選候ワスルト按
 昔時獨乙國ニ有セテ、國帝ヲ選擇ノ國帝ヲ選擇スル
 スル權利ヲ有セシ候伯ノ類、自己ノ意ニ隨
 ニ方リテ、之ニ左袒スルト否トハ、自己ノ意ニ隨
 ヒ、其可トスル者ハ、之ニ左袒シ、否ラサル者ハ、之
 ニ左袒セサルヲ得ルナリ、○此等ノ利アルヲ以

テ古昔ハ選立ノ法ヲ是トスル論、殊ニ居多ナリ
 キ、然ルニ迄今ニ至ルニ及ヒ、選立ノ法ヲ非トシ、却
 ラ世襲ノ制ヲ是トス、其執帝ニ學者ノ議論上ノ
 ミナラス、世間ノ輿論亦普ク此制ヲ是トスルニ
 至レリ、近今ノ學者中、獨シスモシダノ按瑞士
 年ニ死ス、選立制度ノ是、○今下章ニ於テ將ニ選
 ナル所以ヲ主張シタリ、立制度ノ不可ナル所以ヲ論セントス、
 所以ニ二理アリ、選者ノ識鑒其當ヲ失ヒ、或ハ誤

リテ疑徳ノ小人ヲ選立ス、是、一患ナリ、去レ氏此
 選擇ノ一事ニ止ラス、人世萬事、十全ヲ求ムルハ、
 惑ヘルノ甚キ者ナレハ、此一失ヲ以テ、強テ選立
 ヲ不可ト為ルニハアラス、尚一理ノ斷然不可ト
 為サ、ル可ラサル者アリ、凡ソ選立國ニテハ、才
 徳衆ニ超ル者ハ、遂ニ君位ヲ得可キノ制度ナル
 カ故ニ、其選立ノ時ニ方リテ、權力熾ナル者ハ、獨
 其威ヲ逞ウシ、其他比朋ノ黨與起リ、公平ノ心ヲ
 以テ、國家ノ為メニ謀ルヲ遺ヒ、多クハ各私心
 ヲ抱キ、私利ヲ營ムカ為メニ、遂ニ自餘司選者ノ

權利ヲ屈撓シテ、自由ノ道ヲ塞キ、以テ選擇公正
 ヲ盡スヲ能ハサラシム、是、二患ナリ、是ニ於テ選
 立ノ制ハ、遂ニ虚器トナリテ、其實ハ獨リ威力熾
 ナル徒人、恣ニ其私ヲ營ム具タルニ過キス、羅馬
 ノ帝爵國タリシ時ニ於テ、此ノ如キ弊害多カリ
 キ、
 第二動モスレハ司選者中其好ム處ニ僻シテ、之
 ヲ選舉セント欲シ、執拗ノ勢、各黨相軋シ、釁隙猜
 忌ノ餘、遂ニ戰ヲ用ルニ至リ、國家ノ安寧ヲ害ス
 ル憂ト為ル、昔時獨乙國ニ於テ、屢此ノ如キ弊ヨ

リ、國亂ヲ生セシメテアリ、但選立ノ制度ヲ改革シ、其宜シキヲ得ルキハ、此憂ヒヲ除クテ、寧難キニアラス、是亦獨乙史上ニ歴然タリ、シスモンジノ説ニ、選立ノ國ニ於テハ、踐祚ノ争ヨリ國亂ヲ生スルコト多シ、去レテ其勢ヒ甚タ頑執ナラスレテ、國家ノ治安ヲ害スルモ亦淺ク、且ツ鎮制ニ就クモ速ナリ、然ルニ世襲ノ國ニ至リテハ、之ニ由リテ國亂ノ生スルコト甚タ希レナリト雖、若シ一旦騷擾ノ起ルコトアルキハ、其勢甚タ頑執ニシテ、國家ノ治安ヲ傷ルコト少カラズ、且ツ之ヲ撲滅ス

ルモ亦甚タ易事ニアラスト謂ヒレハ、理ナシト云フ可ラス、
 第三選立數次ナルニ隨テ、曾テ王位ヲ得シ諸家闔國ニ充滿シテ、互ヒニ相猜忌シ、各其志ヲ逞ウセント欲シテ、相爭奪スルノ憂ヒアリ、○此憂ヒハ既ニ隆盛ナル國、及ヒ將ニ衰運ニ傾ントスル國等ニテハ、最モ恐ルヘクシテ、國家ノ安寧ヲ害スルコト最モ劇シ、舊羅馬ノ帝爵國タリシ時ニ於テ、此禍害多カリキ、○但シ將サニ隆盛ニ至ラントスル國ニ於テハ、此ノ如キ禍難ニ因テ、却テ國

家ノ榮利安康ヲ増進スルヲアリ、其例ハ舊羅馬ノ王爵國タリシ時、及ヒ民主國トナリシ頃ノ事迹ニ於テ明瞭ナリ、

〔第四〕先君既ニ没シテ、未タ嗣君ヲ選立セサル間ハ、一時虚位ノ國レツヰセントナルヲ以テ、是ニ因リテ生スル所ノ禍害亦尠カラス、○カトリキ加特力教派一按ト云ス、天主教ニテ、其教皇ノ没シタル時、速ニ嗣位ノ教皇ヲ選立スルノ規律ニ倣テ、先君ノ没後、速ニ嗣君ヲ選立スルノ規律ヲ設ル歟、若クハ先君主ノ未タ没セサル時ニ於テ、預メ嗣君ヲ選擇スル

ノ制度ヲ設ルキハ、一時虚位ノ國トナルカ為ノニ生スル所ノ憂患、或ハ少シク減スヘキカ如シト雖、氏未タ全ク此憂患ヲ根去スト為ス可ラス、○世襲ヲ非視スル徒ノ論說ニ、世襲ノ國ニ於テ、先君既ニ没シ、嗣君尚幼冲ナルキハ、攝政之ニ代リテ、權ニ万機ヲ掌ルト雖、氏必シモ嗣君ノ為メニ謀ラス、動モスレハ竊カニ其私ヲ營ム者ニシテ、是ニ因テ生スル所ノ禍難亦尠カラス、加之此禍難ノ時間ハ、選立國ニテ一時虚位國トナルカ為メニ、生スル禍難ノ時間ヨリモ、甚タ大ナリト

云フ、例國ニ此ノ如キ禍難ノ起リシト多ク次之アリ、

第五司選候動モスレバ其戚族ヲ選立シテ、世々君主トナサンヲ謀ルノ恐、少カラス、且ツ又選立國ニテハ、動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ憂ヒアリ、○司選候ノ權力愈、強大ニシテ、能ク大權ヲ其掌中ニ握ルニ堪ルキハ、是等ノ害亦隨テ愈大ナリ、
世襲法ノ選立ニ勝ル所以ハ、下文ノ數條ニ於ルカ如シ、

第一王室ト臣民ト相親附スルヲ、譬ヘハ猶頭首

ト體軀ト相連絡スルカコトク、且ツ其相維持スルヤ、帝ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス、世々繼續シテ、斷絶スルコトナシ、是故ニ國家ノ元氣終古衰頹ヤス、民心ノ和同永ク保存スヘシ、蓋シ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全カラ會メテ、之ヲ一身ニ寄ル者ナリ、

第二是故ニ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全カラ一身ニ會ムル者ニシテ、億兆ト世々其存込ヲ共ニス、故ニ其憂樂利害亦全ク相異ナラス、王室ノ利樂ハ、獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス、即チ共ニ臣

民ノ利樂ナリ、臣民ノ憂害ハ、獨リ臣民ノ憂害ナ
 ルノミナラス、即共ニ王室ノ憂害ト云フ可ク、盛
 衰興亡都テ相共ニシテ、決シテ相離レサルナリ、
 ○世襲君主ニアリテハ、實ニ無道ヲ極メテ、子孫
 ノ存亡ヲモ顧ミサル暴君ニアラサレハ、彼ノ「余
 カ没後大洪水アルヘシ」〔按〕國王路湯第十五世
 暴逆無道ヲ極メテ一身ノ欲ヲ充レハ足レリ、子
 孫ノ存亡興敗ニ至テハ、天命ニ任セテ敢テ顧ミ
 スト云フ、ト云フカ如キ暴言ヲ發スルハ、決シ
 テ有ラサルヘシ、然ルニ選立君主ノ如キハ、縱令
 英明ノ人ト雖モ、一旦私欲ノ念發スルニ至リテ

ハ、動モスレハ國家億兆ヲモ顧ミス、恣意無道ヲ
 極メテ、以テ國家ノ敗亡ヲ招クコトアリ、
 〔第三〕王室ト臣民ノ憂樂利害全ク相異ナラス、且
 ツ奕世君トナリ臣トナリテ相離レサル、猶頭首
 ト體軀ノ相連絡スルカ如クナルカ故ニ、君臣相
 愛スルノ情甚タ深ク、億兆ハ一君主ヲ親戴シ、其
 尊榮ヲ畏敬シ、以テ一君ノ身ハ即チ是レ國家全
 カノ相會マル所ナリト為ス、是ニ於テ臣民ノ王
 室ヲ尊崇シ、王事ニ勤勞スルノ赤心益深ク、隨テ
 國民ノ性情頗ル寛厚トナリ、其志操モ亦大ニ増

古今沿革ノ蹟ヲ歴看スルニ、世襲國ノ一變レテ、
 永ク選立國トナリシハ、殆ト罕ナリ、但シ一旦舊
 王室倒レテ、一時選立國トナリシト無キニシモ
 アラサレト、又直ニ再變シテ、選立君主遂ニ新王
 室ヲ開キ、以テ其位ヲ子孫ニ傳フルヲ得シト多
 シ。○古來選立世襲二制共ニ或ハ幸ニシテ數世
 ノ久レキニ延ル者アリ、或ハ不幸ニシテ速ニ斷
 滅セシ者アリ。○或ハ專ラ賢明ヲ貴フ國アリ、或
 ハ專ラ門閥ヲ貴フ國アリテ、其意趣各相同シカ
 ラス、其利害亦時ニ隨テ各殊ナリ。○民風衰敗

セシ國ニテハ不徳ノ小人ヲ選立シテ其非ヲ悟
 ラス、羅馬帝國ノ事蹟ヲ以テ鑑戒トナスヘシ。○
 王室盛衰存亡スル所以ノ理、宛カモ活物盛衰死
 生スル所以ノ理ニ異ナラス、王室既ニ數世ノ久
 シキヲ經テ、其元氣漸ク衰弊スルト、例ハ佛朗
 哥國〔我歐洲ノメロキングル朝〔按世ノ郎哥國ニ於ケルカ如ク、又君民ノ間相和セスレテ、互ニ仇視スルト、例ハ英國ノ斯丟亞爾的朝〔按英國ト其臣民トニ於ケルカ如ク、又君民ノ心情全ク相離隔スルト、例ハ佛國ノボウルボン朝〔按先朝ト

其臣民トニ於ケルカ如ク、或ハ闔國列邦ノ民心
 全ク和同セント欲スト雖モ、其君主ハ之ヲ喜ハ
 スシテ、却テ外國政府ニ依頼シテ、其擁護ヲ仰ク
 一、例ヘハ、以太利列邦ニ於ケルカ如クナルモ、
 臣民遂ニ尊王ノ心ヲ遺レ暴カヲ以テ之ヲ倒シ
 遂ニ新王室ヲ戴テ、國家億兆ノ一和カヲ復スル
 ハ、必然ノ勢ナリ、

○國民門閥ヲ重シテ、系統尊キ王室ヲ喜フ
 ノ情アルハ、即世襲制度ノ、堅固ニシテ壞レ難
 キ所以ナリ、佛國スラ尚未タ此情ヲ脱セサル

ハ、嘗テ路易那破倫（按）三世ナリ、
 テ明瞭ナリ、但佛國ノ如ク古來數次ノ革命ア
 リテ、數王家ノ子孫今尚駢存ル國ニ於テ、君主
 政體ヲ存セント欲セハ、選立制度却テ利アル
 ハシ、

第六款

第二 世襲法

近世文明開化ノ世トナリシ以來ハ、都テ公私ヲ
 混淆スルヲナキカ故ニ、世襲繼位ノ事ニ就テモ

必、茲ニ着意シテ、繼位ト繼統ノ別ヲ明カニシ、繼位ヲ以テ國家ノ公事トナシ、繼統ヲ以テ王室ノ私事トナス。○去レ氏繼位法ハ、素ト世襲ニシテ、子孫繼續スルヲ主ト為スカ故ニ、全ク繼統法ト相離ル、者ニアラス、必、此法ニ因テ、繼位法ヲ定ムル者ナリ、

〔第二〕世襲法ハ、國法上ニ於テ、必、預定スルヲ緊要ナリ、然ル所以ハ、此事殊ニ、國家ノ安危ニ關スル甚大ナレハナリ、中古ハ國法上ニ於テ、預メ世襲ニ、王族等論ヲ開キクハ、此○是故ニ世襲法ハ、必、憲

法ヲ以テ確定スヘシ、決シテ君主ノ意ヲ以テ之ヲ變改セシム可ラス、是即通則ナリ、古時羅馬ニテハ、此ノ如キ制度アラサリレカ氏、獨乙ノ私法ニ於テハ、此規律既ニ備ハレリ。○抑嗣君王位ヲ繼クノ權利タルヤ、直ニ之ヲ先君ニ受ルニアラス、又先君ノ私身ニ代リテ之ヲ得ルニアラス、嗣君ノ之ヲ得ルハ、自カラ當然ノ法アリテ之ヲ得ル者ニシテ、此事獨乙ノ家産相續法スタムグロニト其理ヲ同ウス、○王室一系譬ハハ一體ノ如ク、歷世子々孫々相續テ、輒クモ斷絶セス、先君没

スレハ嗣君當然ノ權利ヲ以テ直ニ其位ヲ繼ク者ニシテ、寶祚須臾モ空虚ナラサレハ、恰モ一王ノ永ク死セサルカ如シ、

第三是故ニ嗣君位ヲ繼クノ權利ハ、先君没シテ然後ニ始メテ得ル者ニアラス、必預メ確定スル所ノ者ニシテ、實ニ至重ノ權利ナルカ故ニ、嚴ニ國法ヲ以テ保護スヘシ、君主ノ權ト雖モ、決シテ與奪ヲ恣ニスル能ハサルナリ、

歐洲ニテハ籍土ノ制、封建ニ類スル制ナリ、按稍四第九款大ニ此繼位法ノ起立ニ裨益ヲ為シタ

レ氏、此法タル決シテ其裨益ノ大ニ因テ起立セシニハアラス、繼位ノ事亦實ニ最大公事ナルヲ以テ、自カラ起立セシ者ニシテ、之ヲ要スルニ此事誠ニ國家ノ大事ナレハナリ、故ニ輓近ニ至リ、籍土ノ制ハ全ク壞レタレ氏、繼位法ハ共ニ壞ルルヲナク、今仍依然タルハ、蓋シ此理有ルニ因テナリ、

第三繼位法ハ方今必ス國憲ルスタスイングニ載セテ確定スル所ニシテ、國憲諸條中ニ於テ、重大ナル者ノ一ナリ、

至リテハ又男ヲ先キニシ女ヲ後ニスル
 仍前法ノ如シ荷蘭國亦然リ
 英國ノ法ハ本族中男子缺クレハ縱令ヒ
 支族中ニ男子アリト雖ヒ之ヲ措キ必ス
 本族中ノ女子ヲ立シ

此法ヲ用フル國ニ於テハ王室氏族ノ
 變革スルト多次ナリ
 年ニ生レ八十年ニ死スノ著書ニ英國ニ
 テハ輓近二百年間氏族ノ變シタル四
 次ナリ第一オハラニ一氏第二ブラウ
 ワイグ氏第三ハンノ一氏第四コブ
 是ナリ

第六國家ハ專ラ一致和同ヲ要ス故ニ決シテ其
 版圖ヲ分割スルヲ許サス故ニ又數人同時ニ王
 位ヲ繼クヲ許サス○中古佛郎哥國及ヒ其他ノ
 各國ニテ版圖ヲ分割シテ之ヲ許多ノ嗣君ニ與
 ヘシテ譬ヘハ猶尋常遺物ヲ數子ニ分與スルカ
 如クナリシカ是全ク國家ヲ以テ君主ノ私有ト
 為スノ習俗ヨリ起リシナリ

第七世襲繼位ハ唯嫡出ノ子ニ許スヘク決シテ
 庶出ノ子ニ許スヘカラス且ツ其他婚媾條約中
 ニ將來所生アルモ決シテ王位ヲ繼カシメサル

ノ旨ヲ載セシキハ、其子ハ實ニ嫡出ナレバ、敢テ
 繼位ヲ許スヘカラス、此ノ如キ制度ヲ立ルハ、他
 キ者有ルキハ、以テナリ去レ、若シ此者ノ繼位權利
 廢スルキハ、此子直ニ繼位ノ權利ヲ得ヘシ、
 ○上ノ〔第四〕ニ論スルカ如ク、國憲ヲ以テ繼位法
 ヲ變スルキハ、此ノ如キ王子ト雖モ、或ハ亦繼位
 ノ權利ヲ得ルヲアリ、但シ王室敢テ私ニ此ノ如
 キ變更ヲナスヲ得ス、

〔第八〕其他各國近今ノ國憲ニ於テハ、多クハ唯同
 等ノ婚媾エーベンノ男女相婚スルノ義按門ヨリ生ル
 ル所ノ子ニ非サレバ、敢テ繼位ヲ許サレハ、ル法ナ

リ、○現ニ君位ニ在ル所ノ氏族、或ハ往時君位ニ
 在リシ氏族ノ男女、相婚スルヲ稱シテ、同等ノ婚
 媾トナス、且ツ獨シノ國法ニテハ、輒近君權ヲ奪
 ハレタル高貴族スタルト相婚スルモ亦同等
 ノ婚媾ト稱シテ可ナリ、○然ルニ又儘一家憲法
 ニ於テ、他族ト相婚スルキハ、縱令ヒ其氏族、國ノ
 高貴族ニ列スルト雖モ、之ヲ同等ノ婚ト稱セザ
 ルモノアリ、此事甚タ頑陋ノ習ニシテ、中古ノ風
 俗ニモ猶劣レリ、
 婚媾ノ一ニ就テ、此ノ如ク制限ヲ立シハ、獨シ固

有ノ風俗ニシテ其源ハ私法ヨリ轉シテ繼位法ニ波及シ今ニ至リテ其遺習ノ尚存スル者ナレハ大ニ門閥懸隔ノ風ヲ長スル者ニシテ開化文明ノ今日ニ於テハ決シテ緊要ノ事ト為スニ足ラス

〔第九〕王家婚媾ノ一ハ重大ニシテ其生ム所ノ子曹ニ父ノ私有ヲ得ルノミナラス兼テ亦繼位ノ權利ヲ得ル者ナルカ故ニ必先國君或ハ代國府ノ許諾ヲ得テ然後ニ此婚媾ヲ定ムル一固ヨリ緊要ナリ何者此事ノ要置大ニ國家將來ノ榮辱

安危ニ關係スレハナリ○故ニ此事ニ就テハ國君及ヒ代國府專ラ國家將來ノ榮辱安危ヲ顧慮スル一甚タ緊要ニシテ決シテ勿ク輕舉ス可カラズ去レ此事既ニ關心ノ累ナケレハ自餘ハ都テ相婚媾スル男女ノ意ニ任スル固ヨリ當然ナリ然ルニ尚種々ノ陋習ヲ守リ或ハ他族ノ混同ヲ忌ンテ男女自由ノ權利ヲ限制スルハ甚タ非理トス○王家婚媾ノ事ハ右ノ如ク重大ナルヲ以テ方今各國ノ國憲必ス其規律ヲ載定ス

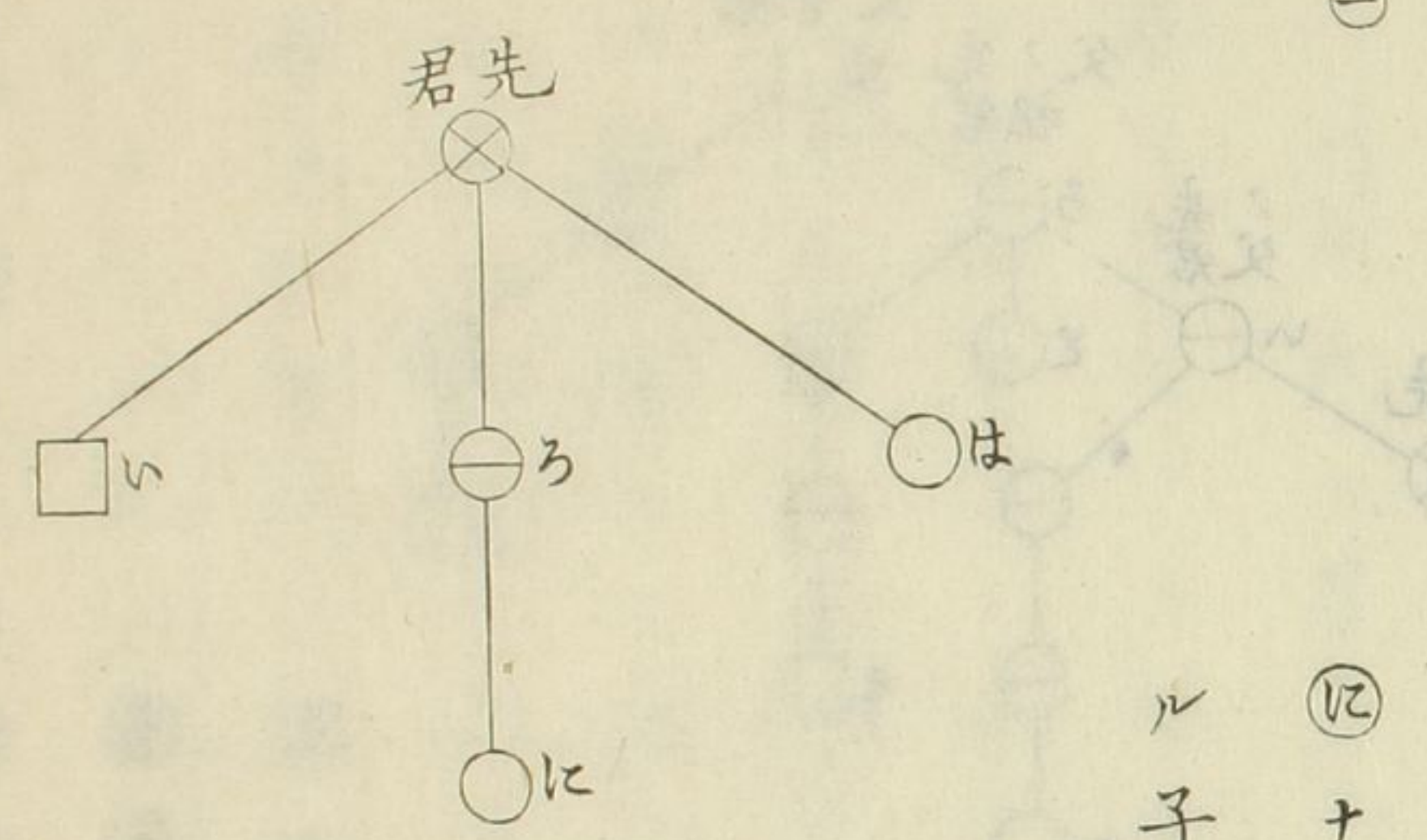
○西班牙國一千八百三十七年天保八年ニ議定ス

ル所ノ國憲第四十九條ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク、
 國王將サニ婚媾セントスルニ方ル、必先其旨
 ヲコルテス、〔按〕立法府ノニ告示シテ而シテ其婚
 媾條約ハ、必、此府ノ検査ヲ經、其許可ヲ取りテ、
 然後ニ之ヲ約結スヘシ、嗣君ノ婚媾ニ於ケル
 モ亦然リ、且ツ國君嗣君共ニ憲法ニ於テ、繼位
 ヲ許サ、ル者ト、相婚スルヲ禁ス、又葡萄牙國
 一千八百二十六年〔文政九年〕ニ議定スル所ノ國憲
 第九十條ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク、若シ自今王子
 ナキカ為メニ、王位ヲ繼クヘキ王女ハ、必ス國

君ヲ許可ヲ得サレハ、婚スルヲ能ハス、若シ國
 君既ニ没スレバ、必スコルテスノ許可ヲ經テ、
 然後ニ婚スヘシ、而シテ其贅夫ハ、敢テ國事ニ
 預ルヲ許サス、且ツ所生アルノ後ニアラサレ
 ハケレニダ〔按〕通常王ノ號ヲ用フルヲ許サス
 ト、
 第十繼位ノ序次ニ於テハ、方今各國皆長幼ノ序
 ニ從フ法ナリ、此故ニ先君没スレハ、長子必ス其
 位ヲ繼ク、長子若シ先君ニ先ツテ没スレハ、長孫
 之ヲ繼テ、先君ノ次子ハ之ヲ繼クヲ得ス、其餘都

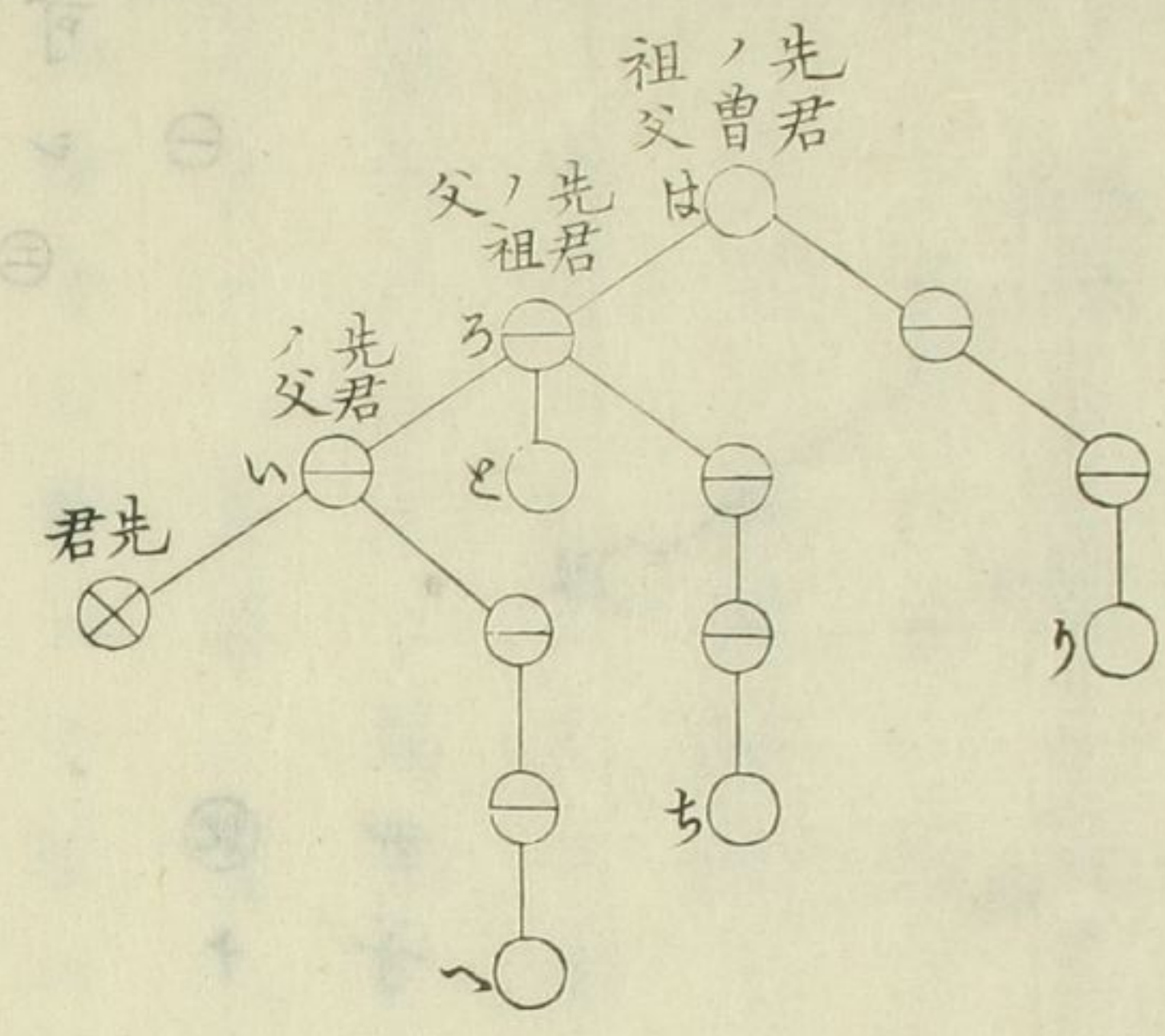
テ亦此、如ク、必ス本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且、一系中ニテハ、必ス長幼ノ序次ニ從フ、而シテ其規律獨リ本族中ニ於テ用フルノミナラス、支族ニ於テモ亦同シ。○繼位ヲ定ムルハ、固ヨリ君主ノ意ニ出ル者ニ非サレバ、其序次ニ就テ、族系ノ親疎遠近ヲ定ムルハ、必ス最後ノ君主ヲ本位トシテ之ヲ論ス、故ニ祖君ハ、素ト此繼位權利ノ生セシ濫觴ナレバ、却テ之ヲ以テ本位ト為サス。○此事ノ意ハ、戚族中男子悉ク没シテ、王位女子ニ移ルノ法ニ於テ、自カラ明瞭ナルヲ得

可シ



⑫ ナル孫ハ、⑬ ナル女、及ヒ⑭ ナル子ニ先ツテ、王位ヲ繼ク、

〔按〕 ⑬ハ、兄弟姉妹ニテ、○ハ男、□ハ女、⊖ハ既ニ没シタル男ナリ、即本支先君ノ長子、父君ニ先テ没セシ片ハ、其孫王位ヲ繼テ、其長女及ヒ次子ハ、繼ク能ハサルヲ示スナリ、



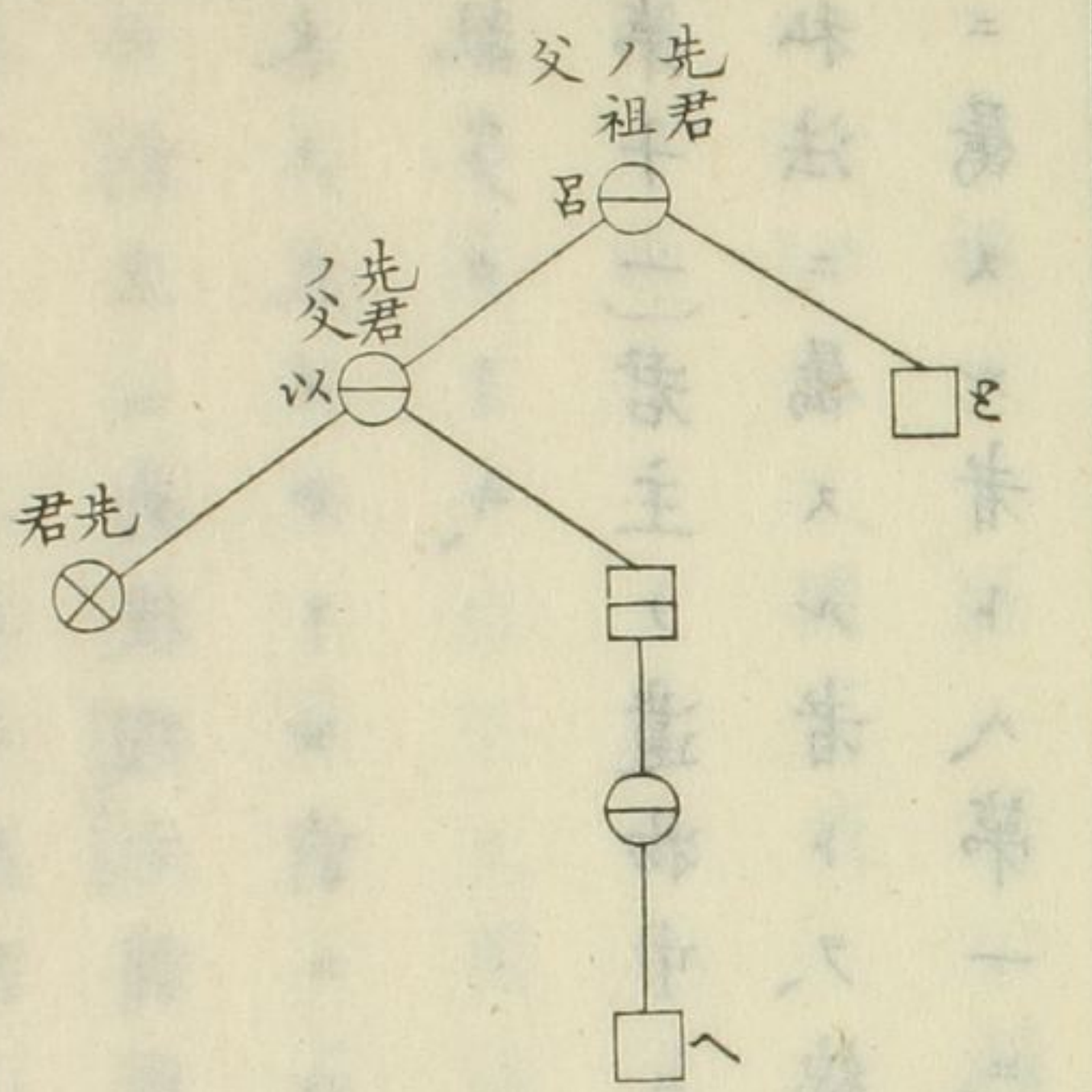
- ㊦ ナル後孫ハ、㊧ ナル叔父、及ヒ
- ㊨ ナル支族ニ先チ、又㊩ハ、㊪
- ㊫ニ先チ、㊬ハ、更ニ㊭ニ先ツ、

〔按〕本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且ツ支系中ニモ近キ先キニシテ、遠キ後ニスルヲ示ス、即チ本系ニ子ナキハ、先第二系ニ移リ、更ニ第三、第四ニ移ルナリ、

㊦ 世普ク知ル如ク、奧地利國ニテ、嘗テハ、
 プルグ氏ニ、男子全ク缺ケル時、最後ノ君主ニ
 最モ親近ナル女子、宜シク繼位スヘキヤ、若ク
 ハ昔時男子ニ先キタレテ、王位ヲ繼カサリ
 シ女子、及ヒ其子孫ハ、往時ノ王ニ親近ナルヲ
 以テ、今宜シク繼位スヘキヤノ疑議起リ、容易
 ニ決セサリシカモ、遂ニ第一論ニ決シ、最後ノ
 君主ニ親近ナル女子ヲ以テ、王位ヲ繼カシメ
 タリ ○ バイエルン國ノ國憲ニ載スル所モ、亦
 之ニ同シ ○ 此ノ如ク男子全ク缺ケテ、女子王

位ヲ繼クノ序次ニ至リテハ、各國大抵羅馬ノ
 法ニ從テ、血脈ノ近キ者ヲ先キトセス、獨乙ノ
 法ニ從テ、族系ノ近キ者ヲ先キニシ、而シテ同
 系中ニテハ、血脈ノ近キ者ヲ先キニス、即チ左
 ノ圖ノ如シ、

①系ニ屬スル所ノ□ナル從孫
 女ハ、②系ニ屬スル所ノ□ナル
 叔母ニ先テ位ヲ繼ク、
 [按]族系ノ近キ者ヲ先キ
 ③血脈ノ近キ者ヲ



後ニスル所以ヲ示ス、即
 チ□ナル叔母ハ、血脈ニ
 於テハ、□ナル從孫女ヨ
 リ近ケレバ、族系ニ於テ
 ハ、從孫女ハ叔母ヨリ近
 キヲ以テ、先ツテ王位ヲ
 繼クナリ、

但シ若シ族系血脈共ニ同シキ時ニハ、弟ヲ先
 キニシ姉ヲ後ニ為スヘキヤ、或ハ男女ヲ論セ
 ス、只長幼ノ序ヲ用ユヘキヤ、否ニ至リテハ、定

則ナシ、英國ノ如キハ、必ス弟ヲ先キニシテ、姉ヲ
 後ニスルノ法ヲ用ヒ、獨乙ノ數國ニ於テハ、男
 女ヲ論セズ、唯長幼ノ序次ニ從フ者アリ
 獨乙ニテハ、長子繼位ノ法、司選候ノ國ニ於テ始
 テ創立シ、爾後獨乙諸國ニ傳播シタリシカ、此法
 未タ立タサリシ前ニハ、各國繼位ノ事ニ就テ争
 亂多カリキ、

第十二 君主ノ遺物中ニ就テ、國法ニ屬スル者ト
 私法ニ屬スル者トヲ、綿密ニ分別スヘシ、其國法
 ニ屬スル者トハ、第一ニ、君主ノ王位ニ在ルヲ以

テ掌握スル所ノ諸公權利、按權利ハ、無形物ナレ
ナルモ次ニ、國憲、或ハ一家憲法ニ載定スル所ノ
 所有物是ナリ、其他創立建造ノ事ニ由リ、或ハ君
 主ノ遺言ニ由リテ、國法ニ屬スル遺物トナル者
 アリ、又私法ニ屬スル遺物トハ、全ク君主ノ私有
 物ナリ、○國法ニ屬スル所ノ諸遺物ハ、必ス國法
 ノ定ムル所ニ從テ、唯嗣君獨リ之ヲ受ルヲ得、私
 法ニ屬スル所ノ諸遺物ニ至テハ、私法ヲ以テ之
 ヲ處分ス、是故ニ敢テ竇祚ヲ以テ、王家ノ私遺物
 トナス可ラス、單ニ私遺物ヲ受ル者ハ、敢テ公遺

物ニ關スルノ權ナシ

○ バイエルン國ノ國憲ニ、國法ニ屬スル遺物ト、私法ニ屬スル遺物ノ別ヲ詳ニ記載ス、其國法ニ屬スル遺物トハ、即チ左ノ條件是ナリ、第一、諸簿冊、第二、公事ニ屬スル諸館舎、及ヒ其附屬ノ物件、第三、砲銃、彈藥、兵庫、及ヒ民兵ノ要具、第四、王居ノ樂人、及ヒ吏員ノ官舎、其諸器械、此器械ハ、王居總裁ノ管スル所ニシテ、王居ノ用ニ供シ、或ハ之ヲ以テ王居ノ盛典ヲ示スナリ、第五、王居、或ハ宴宮ノ建造、又ハ其粧飾ニ用フ

ハキ諸具、第六、家寶及ヒ先君ノ之ニ附加セシ物件、第七、文庫、理學器械庫、天工品庫、貨幣庫、古物庫、肖像庫、天文臺、及ヒ其諸器械、圖畫庫、銅版圖畫庫、其外、學術獎勵ノ為メニ必要ナル物件、第八、國庫貯藏スル所ノ貨幣、及ヒ其他貨本官舎貯藏スル所ノ天工品、及ヒ歲入ノ未タ收納セサル物、第九、公費ヲ以テ得ル所ノ諸物件、其他私ニ得タル不移動物トイハトモ、先君未タ嘗テ之カ處置ヲ為サ、レハ、是モ亦國法ニ屬スル遺物トナルナリ

第七款

繼位ニ就テ、人體ノ應否イホルツデルラセ、デレ、ヘー、エル、グ、カ

〔第二〕中古ノ時代ニハ、各國共ニ、藉土法ノ規律ニ因テ、君位繼嗣ノ法ヲ定ムルヲ、殆ト舉世ノ風俗ナリキ、故ニ俗君ノ國〔按〕教士ニ非ル、徒ニテハ、總テ教士ノ君位ヲ繼クヲ禁シタリ、例ヘハ、ロ、ン、ゴ、バル、テ、レ、〔按〕中古國ノ藉土法ノ如キ、則チ此禁アリ、○加カ、ト、レ、特ト、レ、力カ、教ノ教士ハ、都テ教皇ノ扶持ヲ仰クヲ以テ、若シ此徒ヲ舉テ君位ニ莅マシムルキハ、

之ニ由テ大ニ獨立不羈ノ權ヲ害シ、且、國家ノ國家タル所以ヲ失フヲ以テ、今時各國ノ國憲ニ於テモ、亦教士ノ繼位ヲ禁スルヲ中古ニ異ナラス、去レ、氏教士タル者、若シ國家所定ノ規律ニ從テ其職ヲ辭シ、還俗スルキハ、繼位ヲ許スルヲ當然ナリ、但シ素ト教士ノ君權ヲ執レル國ニテハ、此ノ如キ制度ナキヲ固ヨリ論ヲ俟タス、
波羅特士旦〔按〕通、常、耶、蘇、教、又、耶、蘇、正、教、ト、譯、即即、羅羅、馬馬、教教、皇皇、、管管、轄轄、ヲヲ、受受、ケケ、テテ、譯譯、ルル、、
テテ、ハハ、、素素、トト、教教、士士、トト、俗俗、人人、トト、別別、ヲヲ、立立、ルル、、加加、特特、力力、教教、派派、ノノ、嚴嚴、ナルナル、カカ、如如、クク、ナナ、ララ、スス、、且且、ッッ、教教、派派、ノノ、職職、

官ヨリ、國家ノ職官ニ轉スルヲモ、決シテ妨ケナ
キヲ以テ、繼位ノ一ニ於テモ、亦絶テ加特力教派
ノ如キ制限アラズ、

〔第二〕今時繼位ニ就テ、必、教派ヲ一定シ、其教派ヲ
奉スル者ニアラサレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ルノ
法ヲ立ル國アリ、

中古ノ頃ハ、專ラ教派ノ同一ヲ貴ヒ、且ツ國事ト
神事ト全ク一致シテ、決シテ相離レサルヲ以テ、
其本旨トセシカハ、〔按〕即祭政此ノ如キ制限ヲ立
テシモ、固ヨリ當然ナル一ニテ、既ニ帝ト雖モ若

シ教旨ニ背畔スルハ、直ニ教罰〔按〕キルヘンバン
ニ旨意ニ背クハ、〔按〕羅馬教皇ノ權威ヲ受ケ、隨テ
ニテ之ヲ教派ヨリ除クノ罰ナリ、國憲ヲ失フテ常ナリキ、○然レモ、近今ニ至リテ
ハ、固ヨリ國事神事一致ノ論ハヒテ、全ク離レシ
者トナリ、〔按〕近今祭政一致ノ論全ク止リ、且ツ君
主ノ權柄、絶ヘテ其信奉スル所ノ教派ニ因ルヘ
キ者ニアラサレハ、敢テ此ノ如キ制限ヲ立テ規
律ト為ス可ラス、但、若、君主信奉スル所ノ教派臣
民信奉スル所ノ教派ト、相異ナルハ、之カ為メ
ニ臣民王室ヲ尊崇スルノ心ヲ去リ、且、君主其教

派ヲ信仰スルヲ甚ク厚ケレハ、妄ニ威カヲ持テ
 臣民ノ教派ヲ妨害スルノ憂ヒ少カラス、故ニ君
 民共ニ同一ノ教派ヲ奉スレハ大ニ可ナリ、唯此
 事ヲ以テ規律ト為スハ、甚ク不可ナリ、○但シ基
 督教ヲ奉スル所ノ各國、方今ハ法理大ニ開明シ
 テ、既ニ頑陋ノ事モ絶ヘタレハ、繼位ニ就テモ、唯
 基督教ヲ奉スルト否トヲ以テ、其制限ヲ立テ、自
 餘瑣末ノ流派ヲ論スルカ如キ、陋習ヲ廢棄スル
 ニ至ラハ、將來益、不可ナルナカルヘシ、
 然レニ、英國、如キハ、嚴ニ制限ヲ立テ、其國法ニ

於テ、波羅特士旦王國ト自称シ、必、波羅特士旦教
 派ノ君、其王位ヲ繼クニアラサレハ、決シテ國家
 ノ安康ヲ保ツヲ能ハスト為ス、故ニ加特力教ヲ
 奉スル者、及ヒ此教派ヲ奉スル者ト相婚セル者
 ハ、決シテ王位ヲ繼クヲ能ハサル者トス、○瑞典
 ノ如キモ、之ト相同ウシテ、必、アラウグスブルグ教
 派〔按〕波羅特士旦ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位
 ヲ許サス、其他〔キリシヤ〕希臘國モ亦其國憲中ニオルトバ
 キス、キリストリヘ、キルヘ、デス、オリント教〔按〕一
 臘教ト稱ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サ

サルヲ載定シ、又我羅斯ニテハ帝族ハ必希臘
教ヲ奉スヘキノ法ヲ立ツ、

第三王位ハ、必有名無實ナルヘカラス、是故ニ嗣
君ハ實ニ政權ヲ執ルニ堪ヘサル虧缺（按身體精神或行狀）
等ニ於テ、具足セサ決シテアル可ラス、○古時ノ
國法ニ於テハ、大ニ此事ニ着意シタリ、今時モ又
仍此ノ如キ虧缺ニハ、必着意セサル可ラス、然ル
ニ嗣君虧缺甚シカラスシテ、必スレモ之ヲ廢ス
ルヲ要セサルニ之ヲ廢シ、或ハ虧缺甚タレウレ
テ、之ヲ廢セサレハ、勢政府亦隨テ立ツヘカラサ

ルニ、仍之ヲ廢セサル等ノ儘之アリ、此等
ノハ、舉措其宜ヲ失スル者ニシテ、實ニ非理ト
云フヘレ、○此ノ如キ時ニ方リ、或ハ攝政ヲ置テ、
政權ヲ委托スルヲアレ、此事却テ國家ノ災害
ヲ生シ易ク、且ツ攝政ノ職タルヤ、唯君主姑ク政
權ヲ執ル能ハサルノ事故アルカ為、ニ、一時權ニ
設置スル者ニシテ、決シテ終身政權ヲ執ル能ハ
サル君主ノ為、ニ、置ク可キ者ニアラス、然ルニ此
ノ如キ時ニ於テ、此官ヲ置クハ、當ニ利ナキノ
ミナラス、却テ害アリ、○是故ニ嗣君此ノ如キ虧

缺アルニ方テハ、必ス機會ヲ失ハス、恰當ノ處分ヲ
 以テ、此事ヨリ爭論ノ生スルヲ防患シ、而シテ若
 シ虧缺實ニ大ニシテ、真ニ君主タルニ堪ヘサレ
 ハ、必、預メ立法院ノ議定ニ由テ、之ヲ除クヘシ、是
 即チ國家安寧ノ為メ、實ニ已ムヲ得サレハナリ
 所謂虧缺ナル者ハ、下文ニ條列スル所ノ如シ、
 〔甲〕身體ノ虧缺、サクセンスピーゲル〔按〕中古獨
 ニ於テハ、陰陽人、矮人、不具人、及ヒ癩病ニ罹ル者
 等ニハ、ランドレフト〔按〕尋常ノ私法ナルニ屬スル、遺物相
 續ノ權利スラ、尚許サ、リキ、況テ君位相續ニ於

テヲヤ、去レテ癩病ノ如キハ、必スシモ治不可ラ
 サル者ニアラサレハ、唯此疾ニ罹ルノ故ヲ以テ、
 其權ヲ奪フハ、甚タ非理ナリ、故ニ今時ニ至テハ、
 決シテ此法ニ從フナリ、但シ其他ノ虧缺〔按〕陰陽人、
 矮人、不具ヲ受ケタル不幸人ニ、國家ノ尊貴權柄
 ヲ負荷セシムルハ、實ニ國威ヲ汚スモノト云フ
 可シ、
 藉土法〔按〕ナレモヘンレフト、〔按〕ランドレフト、ト相異
 ナリ、法ノ規律ハ、更ニ嚴ニシテ、天性ノ啞人、聾人、盲
 人等ニハ、敢テ藉土相續ノ權利ヲ許サ、リキ、但

レ輓近藉土ノ制ハヒケレハ、此法亦用ヲ為サ、
 ルハ論ヲ俟タス、去レ氏是等ノ徒、國權ヲ執ルニ
 堪ヘサルハ、今仍同シケレハ、今時ノ法ニ於テモ、
 亦是等ノ徒ニ繼位ノ權利ヲ許サス、
 [乙]精神ノ虧缺、一千三百五十六年正平十一年立
 スル所ノゴルデ子ブルレ[按]中古獨ニ於テ、癡人
 及ヒ狂人ニハ、繼位ノ權利ヲ許サ、リキ、○此制
 度ハ、司選候國[按]司選候治ルノ為メニ、始メテゴ
 ルデ子、ブルレニ載定セシト雖、必、此國ノ為メ
 ニ、始メテ設立セシニハアラス、是ヨリ先キ既ニ

他邦ニ於テ用ヒシ者ヲ、此國ニモ亦用シカ為メ
 ニ、始メテ國憲ニ載定セシナリ、○然ルニ今時繼
 位ノ事ヨリ爭論ノ生スルヲ恐ル、カ為メニ、此
 ノ如キ虧缺アルニ方リテモ、繼位ヲ變スルナ
 ク、唯攝政ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムル國ア
 リ、去レ氏此ノ如キ處置實ニ君民ノ為メニ利ナ
 ルヤ否、未タ知ル可ラス、○
 繼位變更ノ一ニ就テ、爭論ノ生スル氏、立法
 府ノ議定ニ因テ之ヲ裁決スレハ、和平ニ至ル
 一、甚タ難事ニアラス、然ルニ數十年攝政ヲ置

キ、之ニ由リテ生スル所ノ憂害ハ、殆ト除ク可
 カラサルニ至ルヘシ、○ダールマン（一）獨乙人、
 八十五年ニ生レ、ハノ政學書ニ云、嗣君此ノ如
 百六十年ニ死ス、其繼位ノ權利ヲ奪フニ
 キ虧缺アルカ為メニ、其議ヲ親戚ニ下レ
 方リテハ、先ツ在位ノ君主、其議ヲ親戚ニ下レ
 テ、其許可ヲ取り、且ツ大臣ノ外、立法府モ亦共
 ニ之ヲ許可セサレハ、決レテ施行ス可カラス
 ト、
 〔丙〕行狀ノ虧缺、嗣君行狀不正ノトアレハ、必ス
 未タ其位ヲ繼カサルニ及ヒ、立法府ヲシテ之ヲ

議セシム以テ廢立ヲ定ムヘシ、今時ノ法即チ此
 ノ如シ、

第八款

第三

民主國ニテ元首起立ノ體裁トエス
 テ、
 イ、
 シ、
 デ、
 ル、
 レ、
 プ、
 プ、
 ヲ、
 ヲ、
 キ、

〔第二〕凡ソ政府ノ職タルヤ、日々ニ變化轉遷スル
 所ノ治安ノ要務ニ着目注意シ、其宜シキニ隨テ、
 其術ヲ活用スル者ナリ、是故ニ先ツ其方法ヲ立
 ルニ當テ、心思必唯一ニシテ、決シテニ途ニ分ル

へカラス、又之ヲ施行スルニ於テ、其能力常ニ前
 進シテ、決シテ凝滯スヘカラス、但シ民會ホルク、
 サムルンス、按國若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、
 民ノ會議ヲ云ス、若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、
 此二要事ヲ舉ント欲スルモ、決シテ能ハサル所
 ナリ、是故ニ近令ノ民主國ニテハ、通常政令ノ權
 柄ヲ以テ、或ハ僅々數人ニ附託シ、或ハ一人ノ全
 權ニ委任ス、瑞士各邦ノ如キ、多クハ第一法按僅
 人ニ托スヲ擇用シ、亞米利加ノ如キハ、第二法按
 人ノ全權ニヲ遵用ス、而シテ此兩法共ニ、實ニ君
 任スルモ、權ニヲ遵用ス、而シテ此兩法共ニ、實ニ君
 主國建制ノ意ニ倣フコト、顯然タル者ニシテ、第二

法ノ如キハ、殊ニ然リトス、實ニ大國ニ於テハ、此
 法制ヲ用ユルニ非サレハ、決シテ理治ヲ得サル
 ナリ、○一千七百九十五年寬政佛國ニテ、行法
 權柄ホルク、按佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、ニ委
 ム按佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、ニ委
 托シタリ、然レハ五名ノ合議常ニ一致シ難ク、隨
 テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ
 之ヲ廢シテ、更ニコンスラト按人負三人アリ
 リ、ノ官ヲ置キ、而シテ其第一等ノコンスル一人、
按那破倫第一等ヲ第一等專ラ全權ヲ握リシカ
 ノコンスルトナシタリ、第一等專ラ全權ヲ握リシカ

ハ政令ノ施設流ル、カ如ク、聊カ凝滞スルノ患
 アラサルニ至レリ、其後一千八百四十八年嘉永元年
 更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如
 キ合議官ヲ置キシカ、政令復常ニ凝滞スルヲ以
 テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉ケテ、之ニ全權ヲ委子タ
 リ、〔按〕此時那破倫第三○國政ノ權一人ニアルキ
 ハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替
 ラス、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ厚ク、
 且ツ政府モ亦能ク其責ニ任スルヲ得、然ルニ國
 政合議ニ出ルキハ、其權力分ル、ヲ以テ常ニ弱

ク、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ薄ク、且
 ツ政府官員、其責ニ專任スル者ナキニ至ル。○小
 國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス、
 且、小國ニテ、長官一人衆ニ超ルノ知略アルキハ、
 動モスレハ臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモ
 ノナリ、故ニ合議ノ制却テ利アリ、○立法府官數
 十百員ノ中、其所見相表裡シテ、自ラ朋黨ノ相分
 ル、ハ固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪シムニ足ラス、然
 此弊遂ニ政府ニ及ヒテ、纔ニ數員ノ間ニ於テ
 モ、亦所見互ニ表裡スルヨリ、朋黨分ル、ニ至レ

ハ、其一致和同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂害最モ甚カラス、^①

① 瑞士合邦ニテハ、グンデスラート 〔此官員七人アリ、

ニ政令ノ權柄ヲ托シ、其各邦ニテハレギリ

ングス、コルレギリ 〔此官員ニ政令ノ權柄ヲ

托ス、○但シ昔者州邑ニテハ、ランダマン、都府

ニテハ ビュルゲマイステル、及ヒ スルトハイ

ト云ヘル官員各一人、其長トナリテ、專ラ政權

ヲ執リ、又合邦ニテハ 那破倫第一世ノ輔助ヲ

以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合邦ノ ランダマン

ト云ヘル官員一名、政府ノ長トナリテ、其政權

ヲ掌握シタリ、然ルニ 輓近ゲンフニテ定立セ

ル國憲、及ヒ今時甚ク合議ノ政ヲ喜フノ民情

ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權ヲ一人ニ委託

スルニ至ルノ前徴ナラン、

② 瑞士各邦ニテ專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政

府ノ不和ヲ預防スルニ足ラス、若シ合議府 〔按

府ナノ官員ヲ選擇スルニ方リテ、先ツ統領一

人ヲ選舉シ、之ヲシテ其他ノ人負ヲ預選セシ

ム、然後ニ立法府ニテ之ヲ議定スルノ法ヲ立

ル歟然ラサレハ立法府選擇スル所ノ者統領
 ノ意ニ適セサルハ敢テ之ヲ取ラサルノ權
 フ與ヘナハ自ラ所見相合スル者相共ニ政權
 フ執ルトトナルカ故ニ合議府ノ中不和ヲ生
 スルト少ナカルヘシ○民主國ニテ議論一致
 セサル徒ヲ合シテ之ヲ合議府ニ置クノ害ハ
 君主國ニテ互ニ和セサル徒ヲ合シテミニス
 トリウム按輔相ニ置クヨリモ其害尚大ナリ
 何者君主國ニテハミニストリウムノ上ニ尚
 君主アリテ之ヲ統一スト雖氏民主國ニテハ

合議府ノ上ニ位シテ之ヲ統一スル者アラサ
 レハナリ按亞米利加ノ如キハ民主國トイハ
 レ政府ヲ統一スルカ故ニ此ノ如キ害アラス
 第二政府ノ主長ヲ任スルハ必ス選擇ニ由ル畢
 竟ホルク按蓋シ茲ニハ親ラ政令ヲ為ス可ラサ
 ルヲ以テ必公議ニ由テ長官ヲ選擇シ以テ之ニ
 國家ノ全權ヲ委子且其尊嚴ヲ授ルナリ故ニホ
 ルク直ニ政令ヲ為スニハ非サレ氏政府ノ主長
 フレテ代リテ政令ヲ為サシムルノ理ナリ
 ホルク親ラ政令ヲ施スト能ハスト雖氏能ク其

主長ヲ選擇スル所以ニ就テ、論者既ニ講究スル
 所アリ、其説ニ據ルニ、ホルク公議ヲ以テ、有徳ノ
 君子ヲ得ル^ト難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常
 ノ人物ヲ選舉スル^トアレ^ト氏、大ニ誤リテ不徳ノ
 小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕レナリ、○ホル
 ク動モスレハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハスレ
 テ、却テ之ヲ避クル^トアリ、且ツ又其好惡愛憎、時
 アリテ變化スルノ患ヒナキニアラス、然^レ氏其大
 人君子ヲ仰慕スル心ハ、甚タ深切ニシテ、且ツ其
 衆目ヨク君子小人ヲ辨識シ、敢テ才徳衆ニ擢

スル所ノ君子ヲ忌妒シ、或ハ姦雄ノ詐謀ニ陥ル
 カ如キ患ヒナシ、○ホルク常ニ其主長ノ聲譽顯
 榮ヲ禱リ、而シテ自己ノ聲譽顯榮、自ラ其中ニ寓
 ストス、○且ツホルク其主長ヲ選擇シテ、至當ノ
 人ヲ得ル^ト、立法府議員ヲ選擇スルニ優ル數等
 ナリト云フ、按以上、ホルク能ク主長
 ヲ選擇スル所以ヲ論ス、
 右論スル所ノ理ニ由レハ、民主國ニテハ、其主長
 ヲ任スルニ、必^スホルクヲシテ直ニ之ヲ選擇セシ
 ムルノ法ウシテホルククスワルバシレハ、余ク廢ス可ラス、
 却テ立法府ヲシテ選擇セシムルノ法ニ優ルト

云、可也、古時羅馬ニテ、數百年間此法ヲ用ヒ、又方今瑞士各邦ノ中、萬民直預政治ウシムテモラルバトシ、按萬民代預政治ト相及スル者ニテ、所謂代議者ヲ以テ立法府ヲ立ルナク、萬民直ニ國政ニ預ル所ノ邦ニ於テモ之ヲ用ヒ、以テ國ノ榮譽利益トナス、但シ瑞士合邦、及ヒ其各邦ノ中ニモ、代國府按即立法府ヲ立ル所ノ邦ニ於テハ、代國府ヲシテ、選擇セシムルノ法ヲ用フ、○此選擇ニ法ノ利害ハ、政府一人ノ統領ヲ置クト、合議府ヲ置クトノ差異アルニ因テ自ラ殊ナリ、譬ハハ財政或ハ庶務等、其他各課ノ長官タルハキ者ヲ

選擇スルニ就キ、其所長ヲ視テ、之ヲ適應セシ職ニ選任スルハ、代國府ニアラサレバ、決シテ融ハス、故ニ瑞士國ノ如ク、合議府ノ各員、是等ノ一分課ヲ掌ル者タルハ、國民ヲレテ直ニ之ヲ選擇セシム可カラス、然レハ一人乃至二人ノ統領、國家ノ元首トナリテ、政府ノ各課ヲ統一スル者タルハ、直ニホルクランテ之ヲ選擇セシムルヲ以テ優レリトス、北亞米利加ニテハ、統領ヲ選任スルニ、以上二法ヲ合用ス、故ニ選擇權利ヲ以テ、立法府ニ與ヘス、

亦直ニホルクニモ與ヘス、蓋シ此權ヲ以テ立法
 府ニ與ヘサルノ意ハ、即チ立法府ノ權カヲ減殺
 シテ、其詐謀ヲ防キ、以テ統領ヲシテ立法府衆員
 ノ部下ニ均シカラサラシメ、且ツホルクヲシテ
 大ニ政治上ニ關係スルヲ得セシメンカ為メナ
 リ、然レ氏又此權利ヲ以テ、直ニホルクニ與フル
 キハ、ホルクノ權カ甚タ強大ニ過キテ、却テ政府
 ヲ蔑如スルニ至ルノ恐レアリ、是故ニ直ニ之ヲ
 ホルクニ與ヘス、必スホルクヲシテ別ニ選擇者ヲ
 ルヘキ者ヲ選舉セシメ、而シテ之ニ統領ヲ選擇

スルノ權利ヲ與フ、是即チ二法ヲ合用スル所以ナ
 リ、○是故ニ先ツ每邦會議ニテ、選擇者ヲ選舉ス
 ルキハ、此選擇者悉ク集會シ、密議ヲ以テ統領ヲ
 選擇ス、而シテ其議悉ク畢リタル後、若シ統領ニ
 選擇セラル、人名、甚タ多クシテ、決定シカタキ
 ナルキハ、之ヲ決議スルノ權ヲ代國府ニ委ヌ、
 第三政府主長頻數變更スルキハ、政令吏務、遺
 傳屢斷絶シ、且ツ永久或ハ遠大ノ事ヲ謀リテ、之
 ヲ起創スルモ、旋テ廢滅スルノ患ヒアリ、其他治
 安ノ根基ヲ鞏固ニシテ、恒ニ民ノ信義ヲ取ラン

ト欲スルモ、決シテ能ハスシテ、大ニ國家ニ害アリ、故ニ政府主長ノ屢變更スルハ、甚タ不可トス、去レ氏民主國元首ノ在職ハ、僅々數年ヲ以テ期セサル可カラス、若シ之ヲシテ終身其位ニ在ラシムレハ、即チ是レ君主國ノ選立君主ニシテ、民主國ノ元首ニハ非サルナリ、○是ニ於テ近今之ヲ折衷シテ一法ヲ立テ、元首ノ在職ハ、必、數年ヲ限ルトイヘ氏、其人能ク其職ニ適スルキハ、更ニ之ヲ選擇シテ、再ヒ其職ニ就カシムルトト為セリ、○今世ノ民主國ニ於テハ此法ニ倣フモノ多

シ、獨リ一千八百四十八年、嘉永元年佛國立ル所ノ國憲ニハ、統領期年ニ至リテ、職ヲ去リシヨリ四年ノ間ハ、必ス再任セシム可カラサル旨ヲ記載セリ、但シ此法ヲ設ルノ意ハ、蓋シ佛國臣民ノ民主政體ヲ喜フ心情、未タ甚タ確實ナラサルヲ以テ、若シ統領ノ再任ヲ許サハ、此政體又變シテ、更ニ君主國トナラシムルヲ恐レシナリ、然ルニ遂ニ勞シテ功ナク、政體忽チ變シテ、再ヒ君主政體トナリタリ、按此時那破倫第三世ヲ以テ統領トセシス、云

○華盛頓ノ説ニ、統領治安ノ事ニ於テ、聊カ間然スヘキ所ナク、天下ノ衆望全ク歸スルトモ、必期年ニシテ其職ヲ去ラシメント欲スルハ、甚タ誤マレルヲナリト云ヘリ、然ルニ吾ヘルソノ世ノ統領第三ハ之ニ反シテ、統領再任ヲ許スノ制度アル時ハ、恐クハ遂ニ再三再四ノ復任ヲモ許スニ至ラント云ヘリ、去レ建國以來未ダ曾テ此ノ如キ弊アルヲ見ス、

〔第四〕元首或ハ主長諸員ハ、皆自由ノ選擇ニ由リ、既ニ其人物ノ賢愚長短ヲ論定シテ、然後ニ位ニ

任セシ者ナレハ、世襲君主ノ如ク、其人體ノ應否ヲ論スルヲ要セス、

去レ氏、通常左ノ規則ニ從フヲ要ス、

〔甲〕選擇ヲ得ヘキ者ハ、必ク國家臣民タルノ權利タルレツビュルゲ

○ヲ全有スル者ニ限ルヘシ、但シ其他自國ニ生レタル者ニ非サレハ、決シテ選擇セザル法ヲ設ル國アリ、蓋シ我政府外國ノ議論或ハ權力ノ為ニ、動カサル、ニ至ルヲ恐ル、ナリ、

○〔按〕國中ノ民人ハ、悉皆其臣民タリト雖、氏實ニ國家ノ臣民ト稱スヘキハ、必ス定法ヲ

リ此定法ニ洩ル、者ハ、國家臣民タルノ權
 利ヲ有スル者ト云フヲ得ス、即チ女子、少年、
 刑人、及ヒ貧ニシテ政府ノ救助ヲ仰ク者等
 ハ、各國共ニ、國家臣民タルノ權利ヲ有セサ
 ル者トス、其他ノ規律ニ至リテハ、各國皆殊
 ナリ、第二卷第二十一款ニ詳ナリ、

〔乙〕老成人ニ限ルベシ、
北亞米利加ニテ、統領ハ必、
 年齒三十五以上ヲ要ス、瑞
 士ニテハ、成人年
 齒以上ヲ要ス、

第九款 君主ノ義務、嗣君ニ遞傳スルノ法

嗣君ハ、先君ノ私身ヲ繼續スル者ニアラス、國家
 ノ君主タル職ヲ紹續シテ、之ヲ掌ル者ナリ、故ニ
 先君ノ私ニ負フタル義務ハ、法ニ於テ、決シテ嗣
 君ニ遞傳スルヲナク、唯君主ノ當職ヲ以テ負フ
 タル義務ハ、必、嗣君ニ遞傳ス、是故ニ君主既ニ没
 スルモ、國家及其元首ノ生命ハ、仍、依然トシテ、恒
 ニ絶滅スルヲナシ、
 是ニ於テ、左ノ數件ノ規律アリ、

〔甲〕君主出セシ所ノ布令、任セシ所ノ職務、及、君主ノ職ヲ以テ結ヒシ條約等ノ如キハ、其君主没スト雖、舊ニ仍リテ已ムコトナシ、

〔乙〕君主若、他人ニ假貸或ハ救助等ノ事ヲ許シ、又ハ職官ヲ與ヘンコトヲ約シテ、既ニ確定セシ片ハ、君主縱令、此約ヲ遂ケスニテ没スト雖、嗣君必、此約束ヲ果スヘキ義務ヲ繼續セサルヲ得ス、○

去、此類ノ約束、實ニ未タ確定セル者ニアラサル片ハ、縱令、現ニ先君トイヘ、法ニ於テ必、之ヲ遂、ヘキ義務ヲ有セス、況テ嗣君此ノ如キ義務ヲ

繼續スルノ理ナシ、但、嗣君仁孝ノ心ヲ以テ、自己ノ私情ヲ去リ、專ラ先君ノ遺意ヲ繼テ、此約束ヲ果シ、以テ先君ヲシテ信義ヲ失ハサラシムルハ、甚タ美事ナリ、去、此、事、決シテ國法ニ於テ、緊要トスル所ニアラス、唯良政ノ要則ト云フ可キノ

〔丙〕先君ノ處分セシ事ニ於テ、外面ノ證ナキ者ハ、嗣君敢テ之ニ從フヲ要セス、例ヘハ、政務施行ノ事ニ於テ、ミニスルヲ兼、（按）皇國ノ大臣ト各省卿

リ、又單ニ大ノ連署ナキ者、（按）政務施行ニ就テハ、臣ト譯ス、

連署スル君主ト共ニ必ス或ハ國憲ノ條規ニ合セサル者等ハ即外面ノ證ナキ者ナルカ故ニ嗣君尋テ之ヲ施行スルヲ要セス○總テ此ノ如キハ唯君主ノ威權ヲ恃テ為ス所ニシテ決シテ君主タルノ職ヲ以テ為ス所ニアラス故ニ先君ノ在位中トイヘ氏敢テ國法ニ合スル所ノ處分ト為スニ足ラス況テ先君ノ没後ニ於テヤ然ルニ又先君ノ處分セシメ繼令實着非理ニ屬シ或ハ大ニ國家ノ公利益ヲ害スルヲ明ナリ氏既ニ外面ニ於テ法ニ合スルノ證アルキハ按國憲ニ

停戾スル所ナク且ニ是テ嗣君恣ニ之ヲ廢スルモ既ニ連署セル者ヲ云スル當理トナリシ事唯君主ノ卒去ニ由テ忽不正非理ト變スルノ理決シテ有ラス總テ事ノ善惡邪正ハ君主ノ死生ニ由テ決シテ變易スル者ニアラサレハナリ吾輩國法汎論ニ於テ公明正大ノ理ヲ以テ論スル所此ノ如シ

〔丁〕君主變スルカ為ニ法亦隨テ變スルノ理決シテ有ルヲ去レ先君制定セシ所ノ法ヲ嗣君更ニ改革スル能ハサルノ理モ亦決シテ有ルヲ

ナシ、嗣君之ヲ改革スルノ權利ハ、即先君ノ之ヲ
 制定セシ權利ト全ク同一ナリ、何者、國家ハ日々
 ニ開明進歩スル者ナレハ、其法モ亦隨テ變革セ
 サル可ラサルヲ以テナリ、○去レ氏之ヲ改革スル
 ニハ、必ス國法ニ於テ定ムル所ノ規律ニ由テ處置
 之、○且之ニ由テ決シテ得有ノ權利ヲバ
 人生レト、按權利ニ原有ト、得有ノ權利ヲアリ、原有トハ、
 縣令神田孝平ヨリ生スル所ノ性法畧ニ詳ナリ、
 傷害スルヲナカル可シ、

○例ハハ先王嘗テ國法ノ規律ニ從テ自己ノ

權利ヲ廢セシテ今之ヲ復スルヲ、繼令國
 家ノ為ニ甚緊要ナリ、氏恣ニ之ヲ為スヲ得ス、
 必之ヲ立法府ニ謀リテ、然後ニ議定スルヲ要
 ス、
 〔戊〕先君ノ私債ハ、嗣君ノ決シテ償フヘキ者ニア
 ラス、唯先君ノ私産ヲ繼續セル者、私法ノ規律ニ
 從テ之ヲ償フノ義務ヲ受クヘキノミ、繼令王室
 家産デスタムゴロト、子ト、為ニ此ノ如キ負債ヲ為ス
 ト雖、氏國君タルノ職ヲ以テ為セシニアラサレ
 ハ、嗣君決シテ之ヲ償フノ義務ヲ受クルヲナシ

ニ幼弱ノ君主ニ、政權ヲ施行セシムルハ、甚タ異
 シムヘキニ似タレ、是實ニ已ムヲ得サルニ出
 ルナリ、○幼弱ナル君主政權ヲ施行スルカ為、
 國家ノ安寧ヲ害スルヲ、必シモ之レ無キニアラ
 サレ、其害タル小ニシテ猶避ク可シ、然ルニ數
 年間攝政ヲ置クキハ、動モスレハ君主ノ權利ヲ
 害スル者ニシテ、之ニ由テ一旦國家ノ危害ヲ生
 スルキハ、其患實ニ大ニシテ、容易ニ除ク可ラス、
 ○ゴルデ子、ブルレ〔按〕中古獨ノ國憲、法ニテハ、年齒十
 ハヲ以テ獨乙〔按〕帝ヲ有セシルクルヒルスト〔按〕帝ヲ有セシル候

ノ國法上ノ成人年齒ト為シタリ、然ルニ獨乙ノ
 私法上ニテハ、二十一ヲ以テ成人年齒ト為シ、羅
 馬ノ法ニテハ、二十五ヲ以テ成人年齒ト為シタ
 リ、又近今ノ法ニテモ、通常十八ヲ以テ君主ノ成
 人年齒ト為ス、獨乙各國多クハ此例ニ從フ、英國
 荷蘭オランダ比耳時ベルギー亦然リ、○瑞典スウェーデン一千八百零九年文化
 ノ國憲第九十三款ニ、君主十八ニ至レハ、スタ
 ッラト、〔按〕國政官、ホーフス、トリアナル、〔按〕
 院、〔按〕一種ノ法院、及、〔按〕コルレギ、〔按〕會議
 ニ參列スルヲ得可シ、但私法上ノ成人年齒ニ至

ラサル間ハ、敢テ其決議ニ預ルヲ得サル由ヲ載
 定ス、然ルニ西班牙イスペイン一千八百三十七年天保八年保ノ國
 憲第五十六款ニ、齡十四ニ至ル迄ハ、君主ノ幼年
 ト為ス由ヲ載ス、同國一千八百十二年ノ國憲第
 君主ノ成人ト為ス由ヲ載セリ、又佛國ニテハ、
 卅利第五世在位一千三百七十四年ヨリ、年齒十
 四ヲ以テ君主ノ
 成人ト為シタリ、
 第二中古ノ國法ニテハ、幼君ニ代リ、政權ヲ掌握
 スル所ノ攝政職ヲ以テ、兼テ君主ヲ保傳スル職
 也、
 如ク視做ス、常ナリシカ、今時ノ
 國法ニテハ、大ニ其別ヲ明ニシ、攝政職ハ、國家治

平ノ為ニ設ル所ニシテ、全ク君主ニ代リテ、政權
 ヲ掌握スル者トナシ、保傳ノ職ハ、唯幼君ノ私身
 ヲ輔翼スル者トナス、是故ニ攝政ト保傳トハ、其
 人ヲ殊ニスルモ妨ナク、而シテ攝政ニ任シタル
 者ニハ、政令ヲ托シ、保傳ニ任シタル者ニハ、君主
 私有ノ事務ヲ托ス可シ、
 是故ニ現立國法ボレチニ設立スル所ノ國法ヲ云、
 中、故ニ攝政設置ノ規律ヲ設ケサレハ、必私法ノ
 規律例ハ、遺言按君主遺言、憲法按王家戚族憲法、或
 云、或ハ政府命令ヲ以テ定ムニ從テ、攝政ヲ任

スルコト、當然ナリト云フ論アレバ、決シテ取ル可
 ラス、總テ私法ノ規則ヲ以テ、之ヲ國事ノ區域ニ
 轉用スルカ如キハ、必、方令ノ制度ニ適セサルナ
 リ、故ニ萬一今時ノ現立國法上ニモ、仍、攝政設置
 ノ規律ハ、必、私法ニ從フ可キ由ヲ載スルキハ、已
 ムヲ得サレバ、若シ否ラサレハ、必、國法ノ規律ニ
 從ハサル可ラサルコト、固ヨリ論ヲ俟タス、
 方令ノ諸國憲ニハ、攝政設置ノ規律ヲ載定スル
 コト詳ニレテ、或ハ預メ其定規ヲ設クル者アリ、
 或ハ臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト為ス者アリ

リ、○攝政ヲ任スルノ權ヲ以テ、單ニ君主ニ托セ
 ス、又單ニ兩院ニ托セス、^③必、立法府ノ憲法^君
 主兩院相議定スルヲ以テ、之ヲ定ムルノ規律アリ、
^④蓋、能ク立憲世襲國^コニス^スチ^ツチ^オ子^ルニ適
 應スル法ト云フ可シ、去レバ若、君主在命ノ日ニ於
 テ、未タ此ノ如キ憲法ヲ設立セサレハ、幼冲ナル
 君主ノ最親戚ノ者、代リテ此憲法設立ノ會議ニ
 參列ス可シ、而シテ此人若、決議ニ預ルコトヲ得サ
 ルモ、必、共ニ之ヲ議スルノ權アル可シ、荷蘭ノ制
 度即チ此ノ如シ、

○^バ以里國ノ國憲第二篇第十章ニ云、君主成人年齒ニ達シタル王族ノ中ヨリ、嗣君ノ幼年ハイエレン中、攝政職ニ任ス可キ者ヲ選舉スヘシ、若、君主未タ之ヲ選舉セスレテ没スレハ、父族アグナト俗ニ父方ニ親戚中ニテ、嗣君ニ次テハ第一ニ繼位ノ權利ヲ有セル成年ノ王族、攝政トナル可シト、○又西班牙國一千八百三十七年天保八年ノ國憲第五十七款ニ云、君主ノ父、又ハ母、或ハ君主ニ次テハ第一ニ王位ヲ繼クヘキ權利ヲ有セル王族、攝政トナル可シト、○葡萄牙國一

千八百二十六年文政九年ノ國憲第九十二章ニ云、君主ニ最モ親近ナル王族、攝政トナル可シ、但、年齒必二十五以上ヲ要スト、○普魯士國ノ國憲第五十六、及、五十七章ニ云、父族中ニ於テ最モ親近ニシテ、能ク其任ニ堪ユヘキ者、攝政トナル可シ、但、兩院其補助トナリテ之ヲ選擇スト、
 ②比耳時ノ國憲第八十一章ニ云、兩院合併シテ、攝政ヲ選任スト、○瑞典國一千八百零九年文化六年ノ國憲第九十三款ニ記スル所モ之ニ同

ウシテ、ライフス、ステンデ府立法議シテ、一名
 若クハ數名ノ保傳ヲ選任スト云、按此二國ノ
 ハ、攝政ヲ選任スルノ權利ヲ
 以テ、單ニ兩院ニ托スルナリ、
 ③英國、荷蘭國、佛國等ノ制度ニ於テハ、攝政ヲ
 選任スルハ、必、立法府ノ憲法ニ出ツ、按此三國
 如キハ、即立憲世襲國
 二適應スル者ナリ、

第三但攝政ヲ設置スルコト、童ニ幼君ノ時ニ於テ
 スルノミニ非ス、又成人年齒ニ屆レル君主ト雖
 凡、登祚ノ後、事故發シテ、政權ヲ執ル能ハサルニ
 方リテ、其事故或ハ甚大ナルコトニ非サル歟、若ク

ハ久シク存スルコトニアラサレハ、必、攝政ヲ置テ、
 權リニ之ニ政權ヲ托スルヲ要ス、其事故ト稱ス
 ル者ハ、左ニ臚列スルカ如キ、
 〔甲〕身體ノ虧缺、例へハ聾、瞽、啞、及、大患、
 〔乙〕癲狂及、之ニ類スル精神病、例へハ癡愚及、最
 モ甚シキ憂悶、
 〔丙〕久シキ不在、按久シキ不在國內ニ或ハ幽囚、
 〔丁〕大ニ君職ヲ損害スル諸業、例へハ暴逆無道、
 暴ニ國憲ニ悖戾セル政令、及、公然治安ヲ害スル
 苛政、

〔戊〕私法ヲ破リテ、自ラ君主ノ體面ヲ汚辱スル所業、

〔己〕行狀不善ニシテ、大ニ臣民ノ尊崇ヲ失ヒ、遂ニ政權ヲ保ツコト能ハサルニ至ルヘキ所業、

右諸事故中、殊ニ丁戊己ノ如キ者アルニ方リテ、攝政ヲ設置シテ、君主ニ代ハラシムルハ、殊ニ條

理及、事業ニ於テ、甚タ施シ難シトス、條理ニ於テ施シ難シトスルハ何ソヤ、抑此ノ如キ時ニ方リ

テ、君ノ非ヲ舉テ其政權ヲ放タシムル者ハ、即臣民ナルヲ以テ、冠履全ク顛倒スト云フヘシ、故ニ

纒ニ其政權ヲ奪フノ外、他罪ヲ加フルコト能ハサ

レハナリ、又事業ニ於テ施シ難シトスルハ何ソヤ、總テ暴惡ナル君主ハ、輒ク政權ヲ放ツ者ニア

ラス、必、暴威ヲ逞シテ、攝政ヲ置カント欲スル徒ニ抗シ、以テ遂ニ之ヲ壓倒スルニ至レハナリ、但

合同邦ツツテ、サムメンゲキ、ノ如キハ、各邦憲法ノ外、仍、全國ノ國憲、若クハ合同國憲ト稱スル、合同

各邦ヲ統一スル所ノ規律アルカ故ニ、此ノ如キ時ニ方リテモ、其處置ヲ得ル自ラ難カラス、〔按〕獨

同邦ノ如キ○是故ニ近今ノ國家學者中、唯甲乙丙〔按〕合

ノ事故ノ為ニ、攝政ヲ置クヲ許シテ、丁戌己ノ事
 故ノ為ニ、之ヲ置クヲ許サ、ル者アリ、蓋甲乙丙
 ノ事故、如キハ、其事實、素ト政權ヲ執ル能ハサ
 ルト明カニシテ、決シテ君主ノ行狀ニ由ル者ニア
 ラサルカ故ニ、速ニ判定シ易シト雖、丁戌己ノ
 如キハ、悉ク君主ノ行狀ニ關係スル者ニシテ、自
 ラ甲乙丙ノ如ク判定シ難キヲ以テナリ。○去、此
 此ノ如キ時ニ方リテ、正義ノ術ヲ用ヒテ、速ニ君
 主ノ暴惡ヲ防ク能ハサルハ、臣民殆ト之ニ堪
 ヲル能ハスシテ、遂ニ不正義ノ術ヲ用ヒテ、顛覆

ヲ謀ルニ至ラント必セリ、但、此事ニ付テハ、末款
 君主不保任ノ條（即第三款）ニ於テ、尚詳論セント欲
 ス、就テ看ル可シ、
 第四民主國ニテハ、元首幼冲ノ患ナキカ故ニ、攝
 政ヲ要スルト（ホトトギス）幾希ナリ、且、若、統領就職ノ後、事故
 ニ由テ政權ヲ執ル能ハサルハ、必、副統領之ニ
 代リテ、政權ヲ施行スルカ故ニ、決シテ政令ノ為
 ニ妨ケナシ、然ルニ民主國ニテ、一ノ患ト為スヘ
 キハ、統領副統領同ク没スル歟、若クハ、其在職ノ
 期既ニ滿テ、副統領ノ選擇未定マラサル時ニ於

テハ、恰モ選立君主國ナルモ、ニ於ケルカ如ク、
國家首領ヲ失フテ、一時虚位國ラツキ、セン
ニ在リ、

第十一款

第五

政柄ノ失去、ヘルハ、スト、デ

第一 辭謝、エントサレクダ、 君主政權ヲ辭謝

シテ、之ニ附屬セル義務ヲ棄テント欲スルキハ、
其自由ニ任シテ可ナリ、然ルニ此自由ヲ妨ケテ、
猶政柄ヲ掌握セシメント欲スルモ、素、治國ノ責

ニ任スヘキ力ノ足ラサル者ヲシテ、強テ其責ヲ
負荷セシメントスルヲナルカ故ニ、甚、理ニ當ラ
ス、且、國事ヲ好マサル者ヲシテ、強テ國事ヲ掌ラ
シメント欲スルモ、國家ニ於テ小益アラシテ、
却テ害アリ、但、強テ僅ニ一邑ノ如キ小民主國ニテ
例ハ、瑞士國ハ、 如山ノ如キ邦等ニ於ケルカ
如シ、我ハ、 邦トハ、山ノ如キ邦等ニ於ケルカ
但シ世襲國ニテハ、辭謝ニ二様アリ、一ヲ無約辭
謝ト云ヒ、二ヲ有約辭謝ト云フ、君主其位ヲ辭ス
ルニ方リテ、他日重祚ノ約ナケレハ、宛モ没去ニ
由テ、其位ヲ去リシニ殊ナラス、之ヲ無約辭謝ト

云又君主嗣君ノ為ニ謀リテ、一旦其位ヲ讓ル
ト雖氏、嗣君他日若先ツテ没スルコトアルハ、必
重祚スヘキノ約ヲ立ルコトアリ、之ヲ有約辭謝ト
云ス、

〔第二〕黙謝、スチルサロイグング、敢テ自ラ辭謝

セス、唯執ニ由テ自然辭謝トナル者アリ、之ヲ
黙謝ト云ス、但之ヲ認定スルコト自ラ容易ナラス
ト雖氏、其實ハ決シテ明謝ニアウスドク、
章論スル所ニ異ナラス、君主若ク其國ヲ去ル
歟、若クハ永ク政務ヲ棄ルニ至ルハ、則黙謝ト

定メテ可ナリ、既ニ一千六百八十八年元禄英國

顛覆ノ時ニ於テ、其巴力門議負ノ中、真ニ王室ニ

左祖セシ黨スラ、尚此理ヲ認許セタリキ、按英國

民王ニ叛テ世在位ノ時、教法ノ事ヨリ騷乱起リ、國

ハス、遂ニ仙國ニ奔リタリ、然ルニ此時王ニ左祖

謝ラリ、認定○又君主自カラ其版圖ヲ他人ニ賣却

シ、或ハ授與スル時ニ於テモ、其事ノ理非ヲ論セ

ス、總テ君主ノ黙謝ト定メテ可ナリ、

〔第三〕國憲ノ規律ニ從テ、實ニ君位ニ在ル可ラサ

ルノ理生シタル者、アルコト、ハイ子ル、ダブ

例ハハ英國ノ國憲ニ於テハ、君主加特力教
 派（基督）ニ轉依スルキハ、敢テ君位ニ在ル可
 ラサルナリ、○但方今ハ此ノ如キ時ニ於テモ、亦
 實ニ甚シカラサル虧缺アル時ニ於ケルカ如ク、
 唯攝政ヲ置テ、代リテ政權ヲ掌握セシムルヲ以
 テ、足レリトスル國アリ、

第四廢位、（アン）古ノ頃ニハ、君主國ニテ
 屢廢位ノ事アリキ、民主國ノ如キハ、今仍此規律
 アリト雖、凡方今君主國ノ國法ニテハ、通常此規
 律ヲ用フルヲ許サス、（猶本卷論第十八）

第五奪位、（エ）

第一、敵國外寇、暴威ヲ以
 テ君位ヲ奪フコトアリ、第二、國民舉テ顛覆ヲ企テ、
 以テ君位ヲ奪ヒ、君主政體ヲ倒スコトアリ、第三、霸
 者篡奪ヲ企テ、君主ヲ倒シ、以テ國權ヲ吞ムコトア
 リ、古今此等奪位ノ例、最モ甚カラス、
 右三件（第五）中第一、第二、ハ、皆現ニ君主政治施
 行ノ事業ヲ奪フ所以ニシテ、未タ併セテ其權利
 フモ奪フニアラス、君主事業ト共ニ其權利ヲセ
 放棄セサルキハ、遂ニハ權利ヲ有スル君主ト、及
 ヒ事業ヲ執レル君主、或ハ政府ト相分レテ、名實

相離ル、カ故ニ、各互ニ名實ヲ併有セント欲シ
 テ、相争フニ至ル、實ニ權利ト事業ノ相分ル、ハ、
 甚、歎スヘクシテ、國家ノ患害之ヨリ大ナルハナ
 シ、
 名義正シカラサル君主〔按〕未タ權利ヲ併有スル能ハスレテ、唯事業ヲ奪
 君主ハ、威權自ラ強大ナルカ故ニ、速ニ國民ヲ制
 服セント欲ス、國家實力アル所ノ政府ナキキハ、
 其安寧秩序、獨リ存ス可ラサルヲ以テ、臣民亦自
 ラ此君ニ服從シテ、其命令ニ恭順スルニ至ル、是
 ニ於テ此君遂ニ其志ヲ得可シ、縱令儘之ニ服セ

スレテ、其命令ヲ拒絶セント欲スル者、若クハ其
 黨與アルモ、僅々數人ノ力、能ク企テ及フ可キニ
 アラス、直ニ兵隊、法官、警守官等ノ為ニ、制壓セラ
 レン、必然ナリ、是時ニ方リテ、名義正シキ君主、
〔按〕既ニ事業ヲ有スルハレテ、唯己ニ忠良ナル臣民ヲ
空ニ權利ヲ有スル君主、已ニ忠良ナル臣民ヲ
 保護セント欲スルモ、力足ラサルヲ如何セン、君
 主自ラ臣民ノ權利ヲ保護スルヲ能ハサレハ、臣
 民君主ノ權利ヲ敬重セスト雖、亦之ヲ如何ト
 モス可ラス、○去レ、又名義正シカラサル君主、
 名義正シキ君主ヲシテ、全ク權利ヲ放シムル

「能ハス、其威カヲ以テ臣民ヲ壓服セシカ如ク、此君主ヲ壓服シテ、全ク其權利ヲ奪フヲ甚容易ナラス、

①英國ニテハインリヒ第七世ノ時一千四百九十四年明應三年巴カ門ノ議定ニテ、現ニ事業ヲ執レル君主ニ勲功アリシ徒又謀反ノ罪、若クハ他罪ヲ以テ刑ス可ラサル旨ヲ令シタリ、①

①〔按〕ハインリヒ第七世嘗テリカルド第三世ヲ撃テ之ニ勝テ、遂ニ王位ニ登リタレバ、國民猶舊王室ヲ慕フテ、新王室ニ勲功アル

者ヲ惡ミシ故、巴カ門ニテ此ノ如ク議定シテ之ヲ令シタリ、茲ニ事業ヲ執レル君主ト云フハ、即ハインリヒ第七世ナリ、國ノ假法ツベシ、遂ニ轉シテ國法トナルノ機會ハ、即茲ニ於テ生ス〔按〕假法轉シテ國法トナルノ國論ハ、首卷第九款ニ詳ナリ、國ノ假法ヲ以テ、恣ニ之ヲ國法ト為サント欲スルモ、決シテ能ハス、然ルニ強テ之ヲ國法ト為ントスルハ、大ニ法ノ法タル本旨ヲ害スト云フ可シ、真ノ法タルヤ、唯直ニ事業ニ施シ得ルヲ以テ足レリト為ス可ラス、必、亦其間ニ道義ヲ存セスハ

有ル可ラス、故ニ徒ニ人カヲ以テ、假法ヲ轉シ、眞法ト為サント欲スルハ、甚誤レルヲナリ、故ニ霸者唯其威權ヲ逞ウシテ、國民ヲ制服セシノミニテハ、決シテ名義正シキ君主ト稱スルニ足ラス、代國府、及諸職官、殊ニ法院等、皆此霸者ヲ認テ君主トスルニ至リテ、始テ眞ニ名義正シキ君主ト稱ス可シ、故ニ此時ニ至リテハ、臣民タル者、皆必ス此君主ヲ奉シテ、其命令ニ恭順セスハ有ル可ラス、假法ナル者、始テ眞法トス、
ナルノ機會、即此時ニ在リ、故ニ曾テ位ヲ奪ハレシ君主、即名義正全ク其

權利ヲ失フノ期限アリ、即國內ニテハ、臣民名義正レカラサル君主ニ抗スル能ハスシテ、遂ニ之ニ服役スルニ至リ、又外國ニテハ、其政府兩君按義正レキ君主ト、正シカラスル君主ト、正シノ間ニ周旋レテ、和平ヲ復セントスルノ謀遂ニ成ラサル歟、若クハ兵力ヲ以テ名義正シキ君主ヲ援タルノ力盡テ、却テ名義正シカラサル君主ト和スルニ至ルキハ、既ニ名義正シキ君主恢復ノ術盡ル時ニレテ、是正シキ此君ノ全ク權利ヲ失フノ期限ナリ、
〔第六〕攝政ハ、嘗テ之ヲ設置セシ旨意已ムキハ、則

其職ヲ失フ、一當然ナリ、其旨意ノ已ムトハ、即チ
 幼冲ノ君主没シテ、嗣君位ヲ繼ク歟、若クハ幼君
 既ニ成人年齒ニ至ルヲ云フナリ、但シ若シ其旨意
 實ニ已ムヤ否ノ、決シ難キハ、方リテ、攝政ノ
 廢置ヲ定ムルニ就テハ、必嘗テ之ヲ設置セシ時
 ニ於テ要シタル國法規律ニ從フ可シ、

大井潤一校

國法汎論卷之六 中終

